

第51回

# 全日本杖道大会

日時

令和六年十月十三日(日)

午前九時十五分開会

会場

京都市武道センター

主催

公益財団法人 全日本剣道連盟

主管

一般財団法人 京都府剣道連盟

後援

京都府・京都市・京都府教育委員会  
・京都市教育委員会・京都新聞

## 剣道の理念

剣道は剣の理法の修練による人間形成の道である

### 剣道修練の心構え

剣道を正しく真剣に学び  
心身を錬磨して旺盛なる気力を養い  
剣道の特性を通じて礼節をとようとび  
信義を重んじ誠を尽して  
常に自己の修養に努め  
以って国家社会を愛して  
広く人類の平和繁栄に  
寄与せんとするものである

昭和50年3月20日制定  
全日本剣道連盟

### 剣道指導の心構え

(竹刀の本意)

剣道の正しい伝承と発展のために、剣の理法に基づく竹刀の扱い方の指導に努める。

剣道は、竹刀による「心気力一致」を目指し、自己を創造していく道である。「竹刀という剣」は、相手に向ける剣であると同時に自分に向けられた剣でもある。この修練を通じて竹刀と心身の一体化を図ることを指導の要点とする。

(礼法)

相手の人格を尊重し、心豊かな人間の育成のために礼法を重んずる指導に努める。

剣道は、勝負の場においても「礼節を尊ぶ」ことを重視する。お互いを敬う心と形(かたち)の礼法指導によって、節度ある生活態度を身につけ、「交剣知愛」の輪を広げていくことを指導の要点とする。

(生涯剣道)

ともに剣道を学び、安全・健康に留意しつつ、生涯にわたる人間形成の道を見出す指導に努める。

剣道は、世代を超えて学び合う道である。「技」を通じて「道」を求め、社会の活力を高めながら、豊かな生命観を育み、文化としての剣道を実践していくことを指導の目標とする。

平成19年3月14日制定  
全日本剣道連盟

# 挨拶

公益財団法人 全日本剣道連盟

会長 網代忠宏



さわやかな秋空の下、第51回全日本杖道大会が、全国から精鋭選手を迎えここ京都市武道センターにおいて開催されるに当たり、ご挨拶申し上げます。皆さまのご協力により大会が開催できますことに深く感謝申し上げます。

杖道は、今から約400年前に夢想権之助勝吉が筑前太宰府の宝満山に参籠し、神意を受けて神道夢想流杖術として創始したものとされており、杖は、打つときは刀となり、突くときは槍となり、また払うときは薙刀となる、千変万化の動きを特色とし、武術の粋が取り入れられているといわれ、その理合は現代剣道に通じるところが多く、杖道の普及発展は誠に意義あるものであります。

全日本剣道連盟では昭和43年、神道夢想流杖道形のうち、12本を選んで全剣連杖道形を制定しました。更に、平成15年には、全日本剣道連盟杖道の解説書を大幅に改訂し、理解し易いものとしたしました。全日本剣道連盟は杖道の普及振興のため、中央・地区講習会を開催しており、稽古会も各地で開催され、益々盛況を呈しています。

杖道人口を見ますと、昨年1年間で227名の方が初段に合格しています。厳しい状況ですが、これからも有段者が増加することを期待しています。

本大会は、杖道初段より杖道七段の段別試合のほかに、個人演武も実施されますが、全日本大会に相応しい内容になると確信しています。

選手の皆様は日ごろの鍛錬の成果を競い合い、体得した技倆と気魄を発揮されると共に、この大会が、各地より参集された選手各位の親睦を深める場ともなり、杖道のより一層の発展に寄与するものとなることを希望します。

終わりに、本大会の開催に当たり主管の一般財団法人京都府剣道連盟をはじめ多くの運営に当たられる関係各位に対し、心から感謝の意を表し挨拶といたします。

# 歓迎のあいさつ

一般財団法人京都府剣道連盟

会長 伊吹文明



全国で選抜され「第51回全日本杖道大会」に出場される皆さん・関係者の方々、伝統武道の殿堂・京都武徳殿へのおこしを心より歓迎します。

京都では初めての開催と伺っていますが、会場は伝統武道の聖地武徳殿にある京都市武道センターです。ご参加の皆さんが、先輩方が大切に護ってきた伝統武道の基本である義・礼を大切に、健闘されることを願います。

日本の伝統武道は、言うまでもなく日々の鍛錬のなかで技と体だけではなく、人間社会の基本である礼節を身につけ、品性ある人間形成を目指すことにあります。各地の期待を背負って出場される皆さんには、私達の全剣連綱領どおりの素晴らしい立ちあいを期待しています。と同時に、同じ道に精進する友との交流を深め、思い出深い大会となるよう願っています。

結びに大会の成功を心より祈念し、御挨拶とします。

# 祝 辞

京都府知事

西 脇 隆 俊



第51回全日本杖道大会が、ここ京都で盛大に開催されますことを心からお祝い申し上げますとともに、全国各地から御参加いただきました選手及び関係者の皆様を心から歓迎いたします。

本大会は、杖道部門の最高峰の大会として昭和49年から開催されており、全国の杖道有段者の皆様が、日本一を目指して日頃の修練の成果を競う大会であります。杖道の継承・普及・振興に大きく貢献いただいているところであり、開催に尽力いただきました全日本剣道連盟の網代忠宏会長、京都府剣道連盟の伊吹文明会長をはじめ、関係の皆様の熱意と御努力に、深く敬意を表します。

杖道は、日本の伝統的な武道であり、鍛錬を通して礼儀、信義、誠実、忍耐等の精神が養われ、人格形成に大きく寄与するスポーツであると言われております。このような杖道の理念のもと、研鑽を積まれることは大変意義深いことであり、皆様方の本大会での熱戦を通じて、杖道の魅力がさらに広がっていくことを心から期待しております。

出場される選手の皆様におかれましては、日々の修練により錬磨された心技一体の術技を演武いただき、成果を遺憾なく発揮いただくとともに、大会終了後は、歴史的建造物や伝統芸能、食文化など日本が世界に誇る京都ならではの様々な文化に触れていただき、京都府の魅力存分に楽しんでいただきたいと思います。

結びにあたり、本大会の御成功と今後ますますの御発展並びに選手の皆様の御健闘を祈念し、お祝いの言葉といたします。

# 祝 辞

京都市長

松 井 孝 治



全国の杖道を愛する選手及び関係者の皆様。ようこそ京都にお越しくださいました。心から歓迎いたします。

「第51回全日本杖道大会」の開催を心からお慶び申し上げます。開催に御尽力されました公益財団法人全日本剣道連盟 網代忠宏会長、一般財団法人京都府剣道連盟 伊吹文明会長、並びに、すべての関係者の皆様に深く敬意を表します。

剣道、居合道と並ぶ三道のひとつとして、古くから日本に伝わってきた杖道。充実した氣勢、正しい杖の動き、間合と間等の「気・杖・体」が一致した、気迫あふれる美しい演武が大きな魅力です。

また、神道夢想流杖術を起源に、攻撃よりも制圧に重きを置く杖道は、年齢を問わず、誰もが親しむことのできる魅力ある生涯スポーツでもあります。

御出場の皆様は、本大会までに厳しい鍛錬を重ねられ、心身ともに磨き上げてこられたことでしょう。本日は、これまで積み重ねてこられた御努力の成果を存分に発揮してください。そして、競い合ったライバルであり同士の仲間との親睦も大いに深めていただき、本大会を通じて、杖道を愛する人々の輪が更に広がることを願っています。本市といたしましても、杖道をはじめ、誰もがいつでもどこでもスポーツを楽しむことができ、スポーツを通じて人と人がつながる、そんな「スポーツの絆が生きるまち・京都」の実現に、引き続き取り組んでまいります。皆様の変わらぬ御支援、御協力をお願い申し上げます。

結びに、本大会の御成功と公益財団法人全日本剣道連盟及び一般財団法人京都府剣道連盟の今後ますますの御発展、並びに御参集の皆様の御健勝と御多幸を心から祈念いたします。

# 杖道とは

## ◎杖道とは・・・。

杖道は古来から伝わる武道のひとつです。長さ128センチ、直径2.4センチの白樫の丸い棒（杖）を武器とし、打ち掛かる太刀を相手に「突かば槍、払えば薙刀、持たば太刀、杖はかくにもはずれざりけり」と伝書にもありますように、太刀、槍、薙刀の技に独自の動きを加味した誠に玄妙多彩な武道です。見た目には只の杖に過ぎませんが、正面はもとより左右から繰り出す杖先の一撃には予測を超えた鋭さが秘められています。

杖道の稽古では、紺または白の剣道着および袴を着用しますが防具は一切使用しません。そのため普段の稽古は立合の形だけで行います。打ち込んでくる太刀を捌き、すかさず杖で太刀の動きを制するというもので、形稽古とはいえ真剣勝負に近い稽古方法といえます。

## ◎全剣連杖道の起源は・・・。

私たちが日頃練習している杖道は、全日本剣道連盟が制定した基本12本と立合の形12本です。杖道が全剣連に加盟したのは昭和31年（1956年）のことですが、その後12年間の研究期間を経て昭和43年（1968年）に全剣連制定杖道が誕生しました。さらに平成13年（2001年）から2年間にわたって指導上の留意点を付記した本格的な見直し作業を行い平成15年（2003年）に改訂版が完成しました。その後、一部修正を行い、平成20年6月に現在の全剣連杖道（解説）となっております。

全剣連杖道の原形は、約四百年前に夢想権之助勝吉という人によって創始された神道夢想流杖術です。夢想権之助は剣の達人でしたが、あるとき宮本武蔵と試合をして敗れたため、武蔵を破るべく筑前太宰府の宝満山に籠って創意工夫の結果編み出したのが、神道夢想流杖術です。口承では杖をもって武蔵の十字留を破ったともいわれています。神道夢想流杖術は明治になるまで福岡を中心に継承されてきましたが、昭和5年（1930年）に清水隆次先生が福岡から上京、翌6年警視庁の武道講師（嘱託）となり、その後昭和31年に全剣連に加入、現在の全国的普及の礎をつくりました。

## ◎杖道の試合・・・。

本大会では、初段から七段まで段別に指定された全剣連杖道の立合の形6本を演武します。試合は打太刀と仕杖がペアを組み、紅白2組のペアが演武を競い合います。どちらの組が優れているかの判定は杖道試合審判規則・同細則によりますが、初段から三段までは礼法・着装はもとより解説書に則した正しい姿勢と正確な打突、充実した氣勢と気迫の籠った気合、目付け、残心などが勝敗のポイントになります。四、五段クラスになりますと、さらに錬熟度が求められます。正確な切り付けと刃筋、間と間合、杖の用法、気・杖（剣）・体の一致など打太刀の技倆と仕杖の技前が相対的に判断されることになります。六、七段ともなると、一挙手一投足が武道としての合理性を備え、理に合った攻防が演武の形を離れて真剣勝負を彷彿させるだけの迫力を有することが大切とされます。云い換えれば、いかに一瞬一瞬に己れの全身全霊を尽くすかということが大切なわけです。

# 大会次第

## ◇ 開 会 式

9:15 ~ 9:45

1. 役員・選手整列
2. 国 歌 斉 唱
3. 挨 拶
4. 閉 式

## ◇ 演 技

9:55 ~ 16:12 予定

1. 初段～四段の部 一回戦から準決勝
2. 昼食 (12:20 ~ 予定)
3. 五段～七段の部 一回戦から準決勝
4. 個 人 演 武 (全剣連杖道の部)
5. 個 人 演 武 (古流の部)
6. 四・五・六・七段決勝

### 各段試合順序および試合場

<b>第二試合場</b>	二段	6 ~ 11	<b>第四試合場</b>	二段	17 ~ 21
	四段	20 ~ 39		初段	8 ~ 15
	五段	8 ~ 14		三段	14 ~ 26
	六段	18 ~ 34		五段	22 ~ 28
				七段	18 ~ 33
<b>第一試合場</b>	二段	1 ~ 5	<b>第三試合場</b>	二段	12 ~ 16
	四段	1 ~ 19		初段	1 ~ 7
	五段	1 ~ 7		三段	1 ~ 13
	六段	1 ~ 17		五段	15 ~ 21
				七段	1 ~ 17

(注) 二段の準決勝は、第1・3試合場で実施  
五段の準決勝は、第1・4試合場で実施  
他の段の準決勝は、各試合場で実施  
※各試合場の数字は、プログラム掲載の試合者番号

本 部 席

--	--	--	--	--	--	--	--

## ◇ 閉 会 式

16:30 ~ 16:50 予定

1. 役員・選手集合
2. 表 彰
3. 挨 拶
4. 役員・選手退場

# 大会役員 (敬称略、順不同)

令和6年8月28日現在

大会会長	網代忠宏							
大会副会長	真砂威	藤原崇郎	伊藤哲朗	伊吹文明				
大会顧問	上田憲幸 小倉昇 小坂達明 中田瑠士	児島克 忍足功 島野泰山 牧瀬憲保	福本修二 梯正治 末平佑二 三宅一志	大嶽將文 黒郷源慈 鈴木康生 目黒大作				
大会参与	武田牧雄 小笠原宏志 白石正範 幸野實 片山外一 中森博文 中世耕弘 中西成章 渡邊三則 三浦悟俊 親川光俊	三上順一 井上雅勝 小林一隆 荻莊誠 二木むつみ 中野正文 神谷明文 岸田芋秋 藤川和正 尾方正照 西出功	小松誠 長谷川弘一 栗原憲一 南信廣 二橋高弘 長榮周作 藤田久長 高木弘伸 青柳俊彦 橋口光博 伊藤雄三郎	安部美知雄 水田重則 千葉胤道 大門進彦 堤俊彦 吉田克法 田中秀和 三原悦男 川上春生 野村良三 音川勝				
大会委員長	中谷行道							
大会副委員長	森本訓史							
大会委員	上浦かなえ 篠原政美 濱崎満 池田公律 小田佳子 久保木優 俊野徹人 武藤士津夫 吉田泰将	軽米満世 谷勝彦 蒔田実章 井島浩二 笠村浩美 佐伯浩惠 成瀬朋一 山本洋子 安保洋子	香田郡秀 内藤常男 櫻井美香 太田健一郎 金井優子 高橋昭博 灰谷達明 横須ます子 小風明	佐藤厚子 長尾知子 秋山嶋恒 岡嶋博文 木下博邦 常田政進 本多成一 吉岡篤生				
実行委員長	高橋俊昭							
実行副委員長	小田武治	松原徹	高沢彰					
実行委員	小林晋一 斎藤諒	加古惠太 深見亮	高橋嶺	長濱直弥				
杖道委員	上田花代子 服部知司	大藤竹俊興	神代孝直	釣賀敏郎				

## 第 51 回 全日本杖道大会審判団

審 判 長		黒 郷 源 慈		
第 一 試 合 場	審判主任	藤 崎 興 朗		
		大 竹 俊 行 (神奈川)	村 上 和 雄 (和歌山)	安 部 恵 一 (神奈川)
		松 村 勇 造 (兵 庫)	鬼 木 正 道 (福 岡)	三 浦 康 典 (東 京)
第 二 試 合 場	審判主任	釣 賀 敏 郎		
		村 上 直 隆 (宮 城)	神 之 薊 文 男 (神奈川)	森 井 美 津 男 (東 京)
		坂 上 亨 (大 阪)	宮 脇 誠 吾 (広 島)	安 部 幸 一 路 (大 分)
第 三 試 合 場	審判主任	神 代 孝 一		
		福 田 博 文 (福 岡)	林 映 子 (神奈川)	上 田 花 代 子 (埼 玉)
		安 田 嘉 一 (神奈川)	阿 部 修 (東 京)	村 上 和 繫 (宮 城)
第 四 試 合 場	審判主任	安 丸 進		
		椿 二三夫 (東 京)	江 藤 友 子 (福 岡)	清 水 勇 二 (東 京)
		小 野 景 久 (長 野)	服 部 知 司 (大 阪)	時 任 晴 美 (神奈川)

## 競 技 係 員

本 部 係	弓 倉 文 浩	河 越 智			
放 送 係	尾 崎 健 二				
表 彰 係	大 塚 崇 宣				
救 護 係	清 水 聡	松 山 好 伸			
大会記録係	森 功 夫	大 門 道 夫			
総 務 係	小 田 武 治	宗 進 一 智	河 中 憲 子		
受 付 係	藤 井 喜代子	吉 永 哲 志	鎌 田 真 之	高 田 美 恵	
	中 川 拓	米 光 篤	渡 部 あゆみ	岩 崎 絵 里	
	橋 本 武 也	鎌 田 祥 子	安 藤 紘 基	北 波 正 宏	
	小 林 由 季	小 牧 春 奈	目 時 和 磨	正 田 雄 也	
	中 川 泰 臣	羽 鳥 秀 一	エスター センサン		
接 待 係	上 野 律 子	岡 本 由 美			
警 備 係	新 谷 遵 子	奥 田 紀 子			
試 合 場 係					
第1試合場	主 任 木 村 通 男				
	山 田 源 士	矢 部 裕 城	戸 坂 浩 志	奥 本 達 也	
第2試合場	主 任 古 谷 重 勝				
	西 川 佳 徳	プ ラ イ ヤ ー ボ ウ	藤 原 貴 之	松 田 那 由 太	
第3試合場	主 任 前 田 新 吾				
	岡 嶋 聡	岸 本 卓	吉 口 晴 富	吉 村 仁 志	
第4試合場	主 任 河 内 賢 司				
	谷 光 二	河 上 龍 介	松 野 秀 樹	高 橋 智 浩	

# 大会要項抜粋

## 1. 趣 旨

全日本剣道連盟杖道の普及徹底を期すため、日頃の稽古の成果を競い合う大会であり、体得した技倆と気魄を助長させることにある。また各地より参集した選手の親睦を深める場とし、もって斯道のより一層の発展を期すものである。

## 2. 出場選手資格

### (1) 段別個人試合出場者

ア 各都道府県剣道連盟の登録会員であって、全日本剣道連盟会員規則に適合している者。

イ 本連盟杖道初段、二段、三段、四段、五段、六段、七段受有者であること。ただし、審判員に選ばれた者は、出場できない。

\* 男子、女子、年齢、職業の制限を設けない。

### (2) 個人演武出場者（全剣連杖道の部）

各都道府県剣道連盟の登録会員であって、全日本剣道連盟会員規則に適合している者。本連盟の杖道錬士六段以上の者。

\* 段別個人試合および個人演武の両方に参加することができる。ただし、古流の個人演武との重複申し込みはできない。

### (3) 個人演武出場者（古流の部）

各都道府県剣道連盟の登録会員であって、全日本剣道連盟会員規則に適合している者。本連盟の杖道錬士六段以上の者。

\* 段別個人試合および個人演武の両方に参加することができる。ただし、全剣連杖道の個人演武との重複申し込みはできない。

## 3. 試合・審判および試合方法

(1) 全日本剣道連盟、杖道試合・審判規則と同細則、および別紙大会要領により行う。

(2) 初段、二段、三段、四段、五段、六段、七段の7種に分け、段別個人試合（2人1組）を行う。

(3) 試合は、トーナメント方式により行う。

## 4. 表彰

(1) 初段、二段、三段の上位2組に対し、優秀賞を授与する。

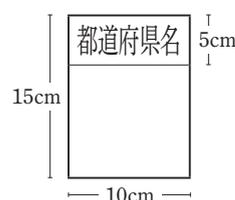
(2) 四段、五段、六段、七段の1位、2位に対し、賞状および賞品を授与する。

(3) 出場者に参加賞を贈る。

## 5. その他

(1) 段別個人試合および個人演武出場者は、登録の都道府県名および姓を明記した名札を左胸部に付けること。

凡例



黒または紺色の剣道着の場合は、黒または紺色の布地に白字とし、白色の剣道着の場合は、白地に黒字とする。

(2) 当日の申込み受付は行わない。

# 全日本杖道大会要領

## 1. 試合方法

(1) あらかじめ2人1組を抽選により、トーナメント方式にて、初段・二段・三段の部は準決勝まで行い、四段・五段・六段・七段の部は1位、2位を決める。

(2) 判定は仕・打交代して勝敗を決める。

(3) 2人1組の選手は、同段位とする。

\* 演武は、① ② ③ ④ ⑤ ⑥の順に行い、前半3本で「仕・打」交代し、後半3本を行う。

### (2) 個人演武（全剣連杖道の部）

演武本数は、六・七・八段とも5本とし、仕・打交代せず指定技は下記のとおりとする。

共 通 ①太刀落 ②雷打 ③正眼  
④乱留 ⑤乱合

### (3) 個人演武（古流の部）

演武本数は、六・七・八段とも5本とし、技は任意とする。

## 2. 演武の本数と指定技

### (1) 段別個人試合

演武本数は、各段位とも6本とし、指定技は下記のとおりとする。

初段の部 ①着 杖 ②水 月 ③引 堤

④斜 面 ⑤左 貫 ⑥物 見

二段の部 ①水 月 ②引 堤 ③斜 面

④左 貫 ⑤物 見 ⑥霞

三段の部 ①引 堤 ②斜 面 ③左 貫

④物 見 ⑤霞 ⑥太刀落

四段の部 ①斜 面 ②左 貫 ③物 見

④霞 ⑤太刀落 ⑥雷打

五段の部 ①左 貫 ②物 見 ③霞

④太刀落 ⑤雷打 ⑥正眼

六段の部 ①物 見 ②霞 ③太刀落

④雷打 ⑤正眼 ⑥乱留

七段の部 ①霞 ②太刀落 ③雷打

④正眼 ⑤乱留 ⑥乱合

\* 初段・二段・三段の部は、決勝戦を行わない。

## 3. 審判方法

(1) 審判員は、3名を以って構成する。

(2) 勝敗は、3名の審判員の多数決による。

(3) 全剣連杖道「審判上の着眼点」による。

(4) 主審は、試合者が開始線の位置についた時、「始め」と宣告して試合を開始させる。

(5) 試合の終了と同時に、審判員は起立し、主審の「判定」の合図により、三者同時に意思表示する。

(6) 主審は、「赤（白）の勝ち……勝負あり」と宣告する。

## 4. 服 装

(1) 審判員は、剣道着・袴を着用し、名札を左胸部に付けること。

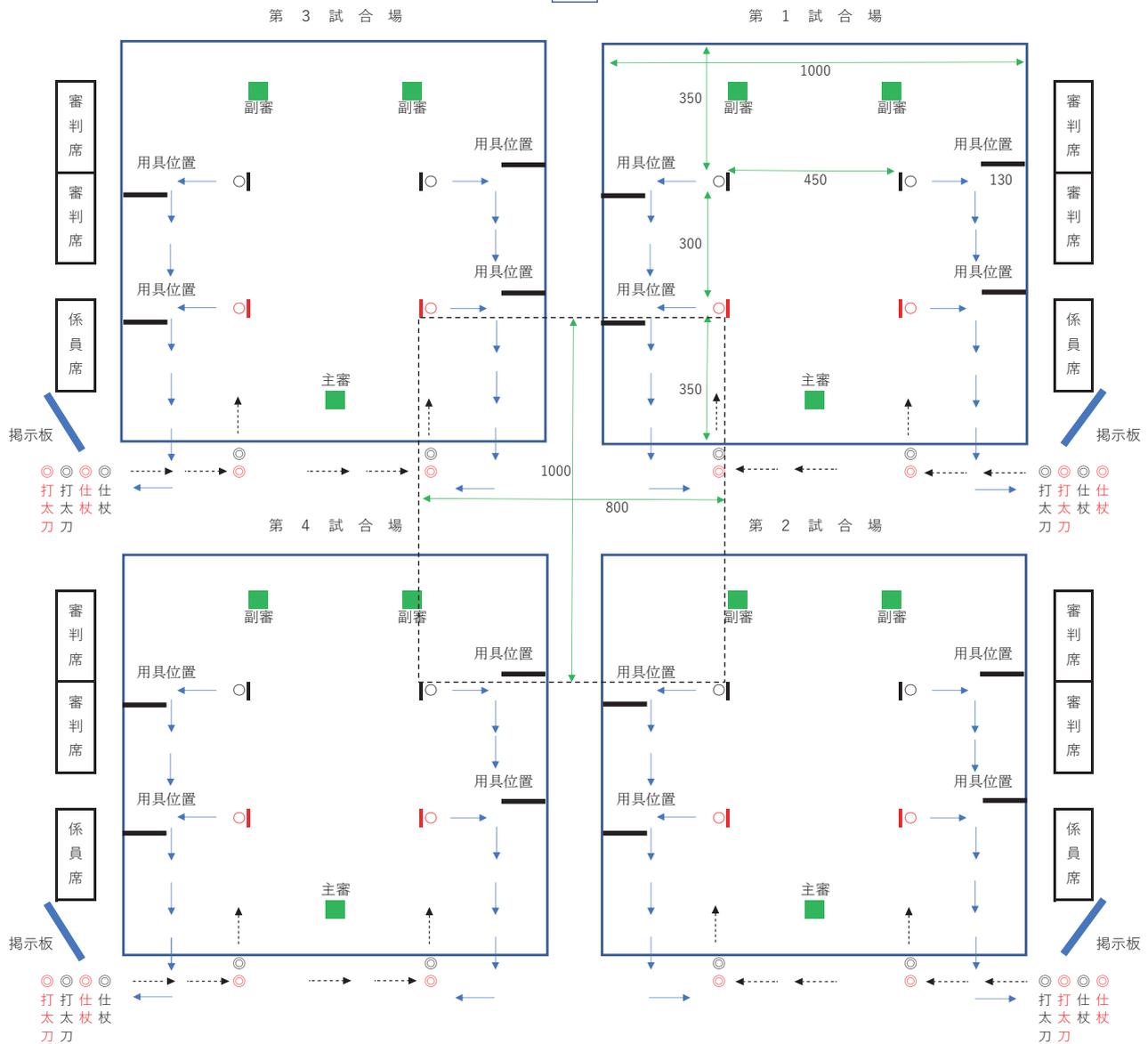
(2) 段別個人試合および個人演武出場者は、剣道着・袴を着用し、名札を左胸部に付けること。

以 上



# 全日本杖道大会における試合者の入退場要領図式

## 大会役員・審判長席



- 1 試合者は、氏名および赤・白の標識確認等を係員席で行い、係員の指示により赤・白ともに試合場の主審側後ろ、開始線の延長線上外側に位置から、太刀・杖を保持しそれぞれの開始線に進む。
- 2 太刀・杖は用具位置（立合位置五歩後ろの右側）に相手を向いたままさがり、右膝を着いて、会場正面に向かって右側の試合者は太刀を、左側の試合者は杖を置き、床に置かない方の用具を持って開始線に戻り、主審の号令で試合を開始する。
- 3 「仕・打」交代で用具位置にさがり用具を交換して、主審の号令で試合を開始する。
- 4 上図で、〇印は、終了した試合者。 ◎印は、次の試合者。
- 5 次の試合者は、氏名および赤・白の標識確認等を係員席で行い、前の試合終了間に係員の指示により赤・白ともに試合場の主審側後ろ、開始線の延長線上外側に位置する。
- 6 主審の「赤（白）の勝ち、勝負あり」の宣告と同時に試合終了者は相手を向いたまま五歩さがり用具を保持し退場する。（上図実線矢印）
- 7 試合終了者が退場と同時に次の試合者は開始線の位置に入場して相手と正対し相手を向いたまま五歩さがり用具を置いて開始線に立つ。（上図点線矢印）
- 8 試合者は、試合の開始前と終了後には、掲示板後方において相互の礼（立礼）を行う。

## 大会等におけるビデオ撮影等について

全剣連が主催する大会、審査会、講習会及びその他の行事（以下「大会等」という。）における写真・動画の撮影及び音声の録音（以下「ビデオ撮影等」という。）並びに撮影した映像及び録音した音声（以下「撮影映像等」という。）の取扱いについては、次のとおりとするほか、各大会等の開催要項で定めるところに従うこと。

- 1 大会等の会場において、以下の条項に従って個人利用の目的でビデオ撮影等を行うことは差支えないが、営利目的又は不特定多数の者に公開若しくは頒布する目的で、これを行うことは禁止する。ただし、全剣連から許諾を得て行う場合はこの限りでない。
- 2 大会等の会場におけるビデオ撮影等は、これを禁止されていない場所で、大会等の運営を妨げないような機材、方法によることとし、他人に迷惑を及ぼさないよう配慮すること。
- 3 大会等の会場における撮影映像等及びこれらのデータについては、有償、無償にかかわらずこれを不特定多数の者に頒布したり、又はインターネット上やその他の方法でこれを公開して拡散させたりしないこと。ただし、全剣連から許諾を得て行う場合はこの限りでない。

以上

### MEMO

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

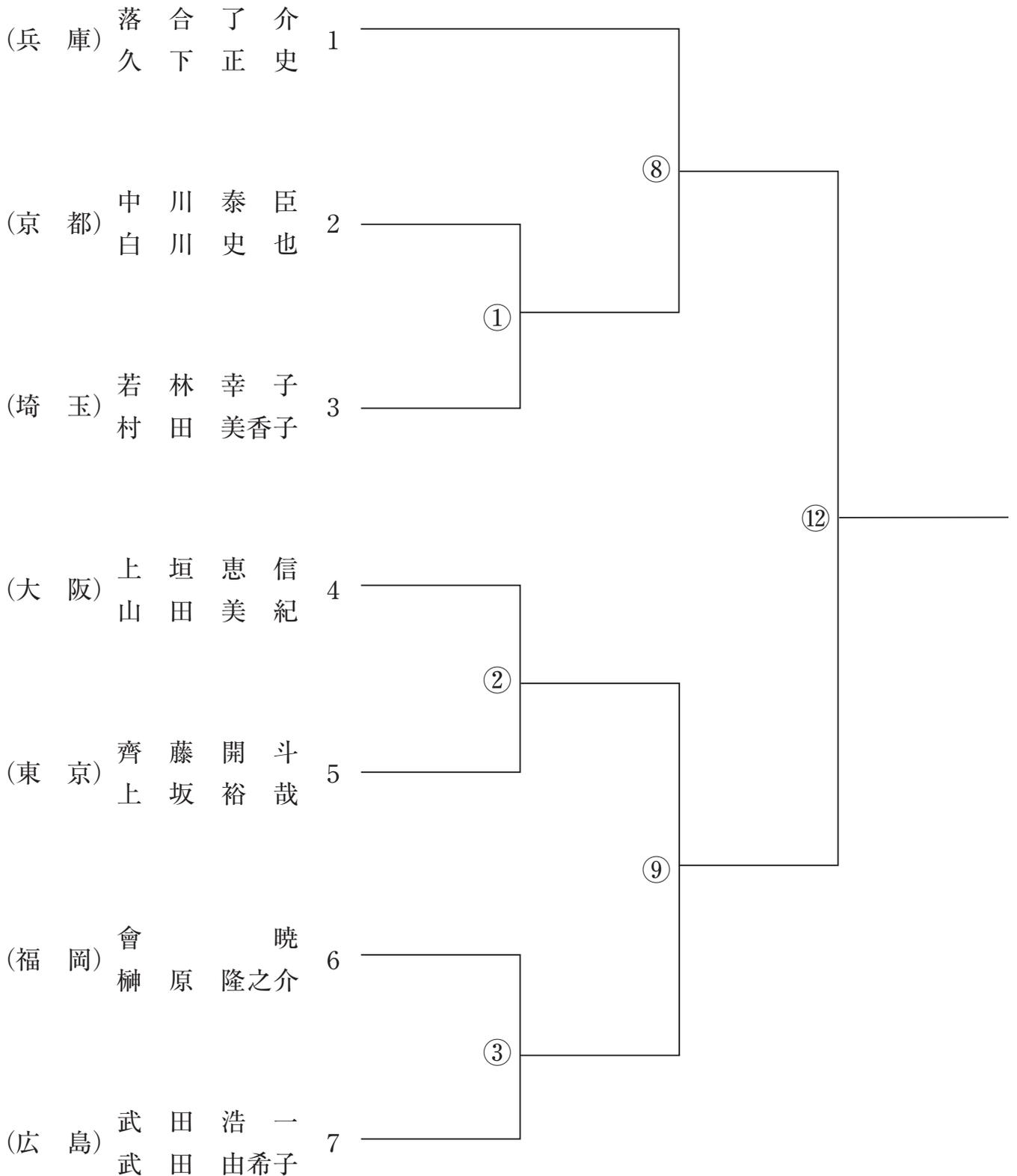
.....

.....

.....

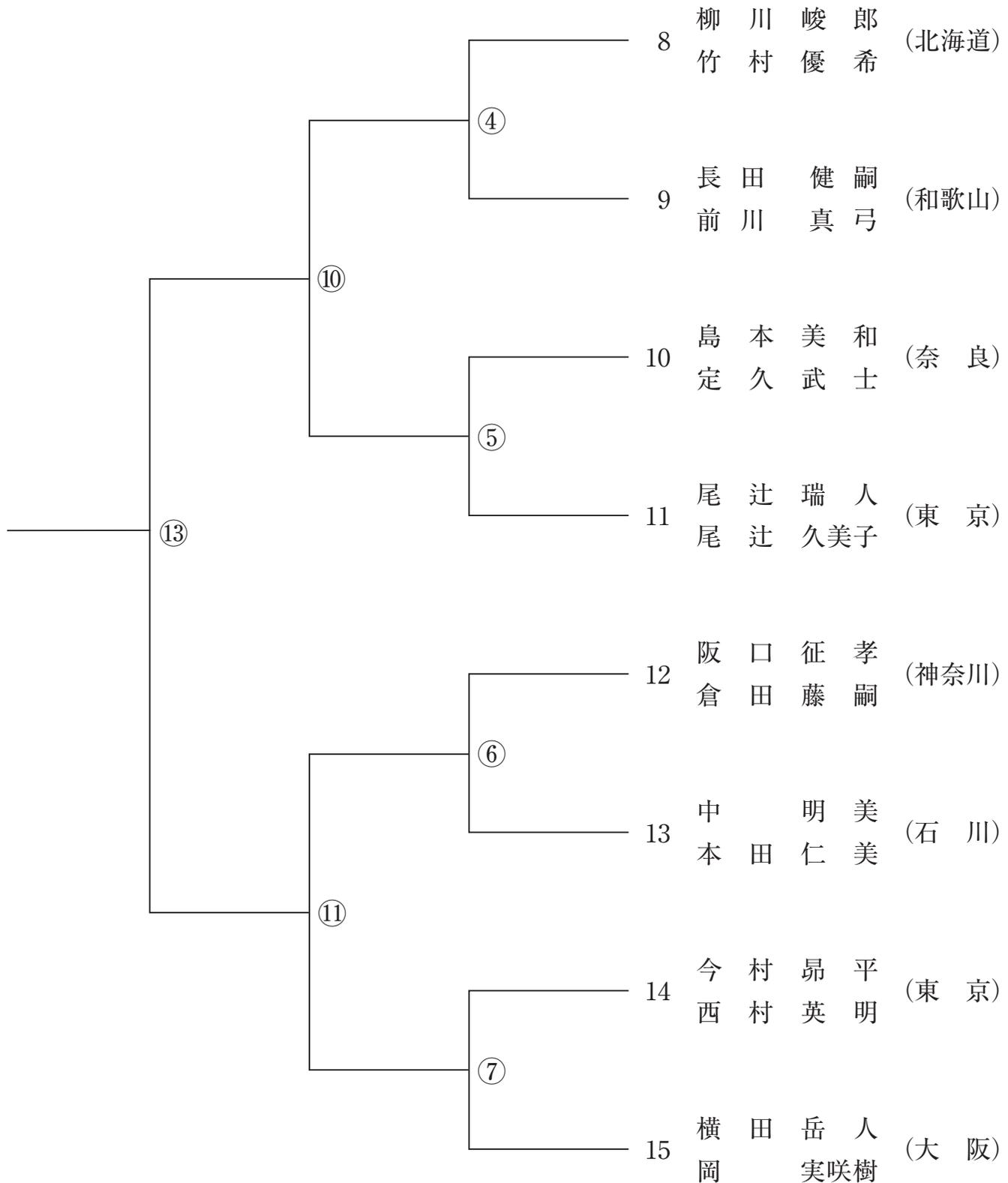
# 全日本杖道大会

## 第3試合場



# 組合せ（初段の部）

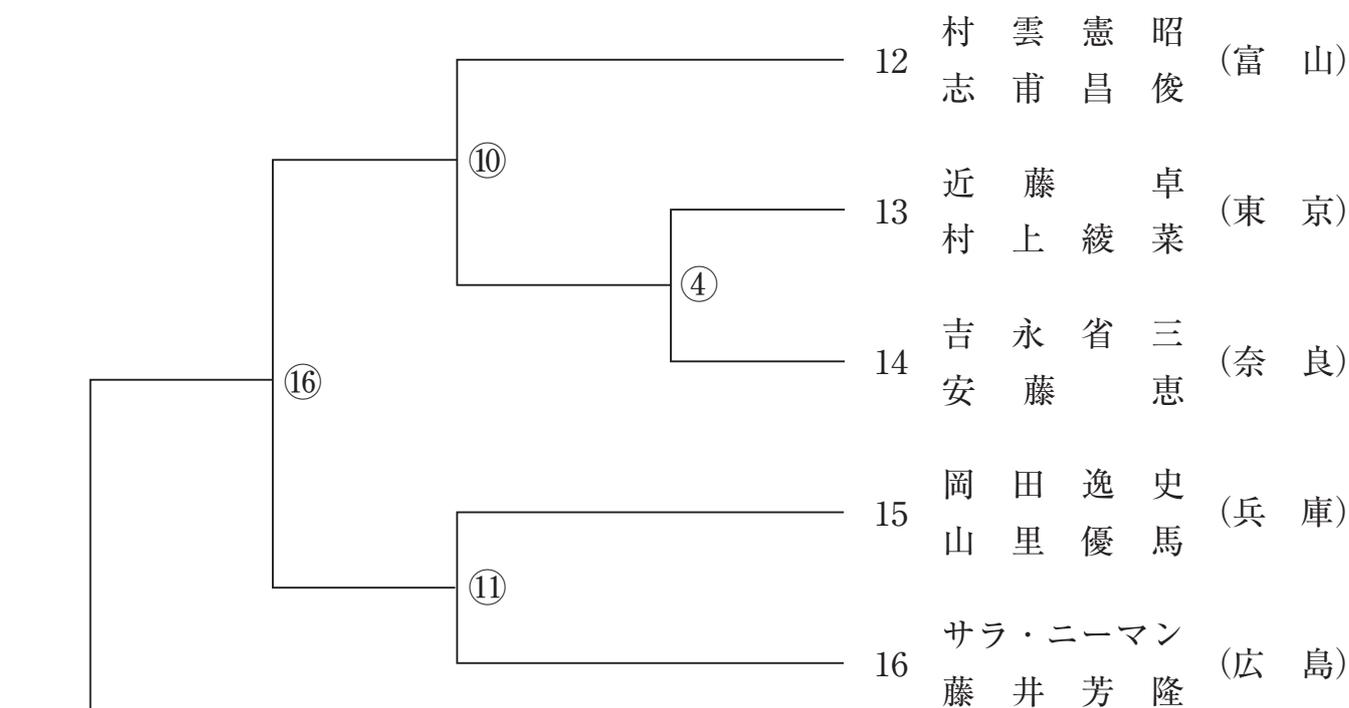
## 第4試合場



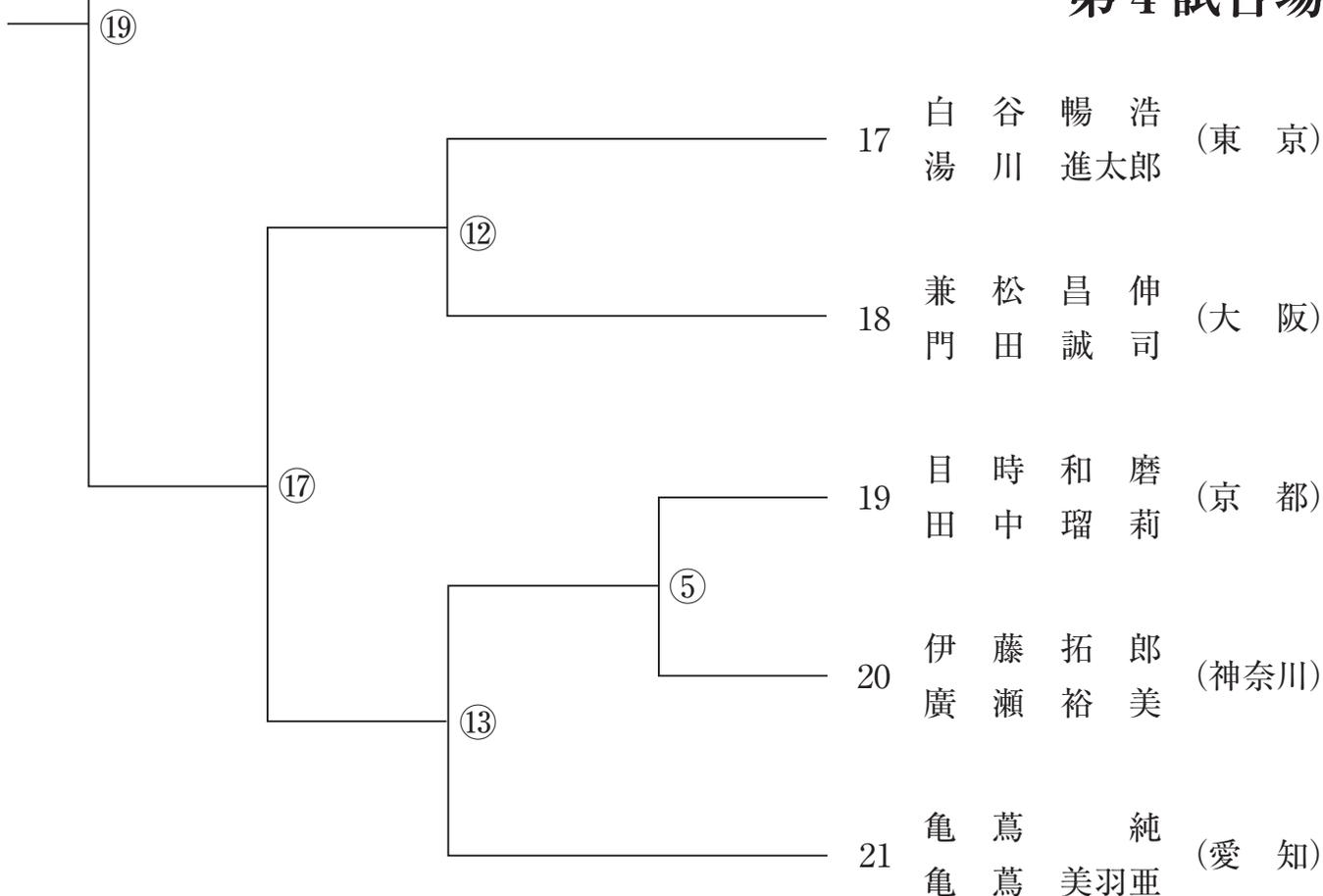


# 組合せ (二段の部)

## 第3試合場

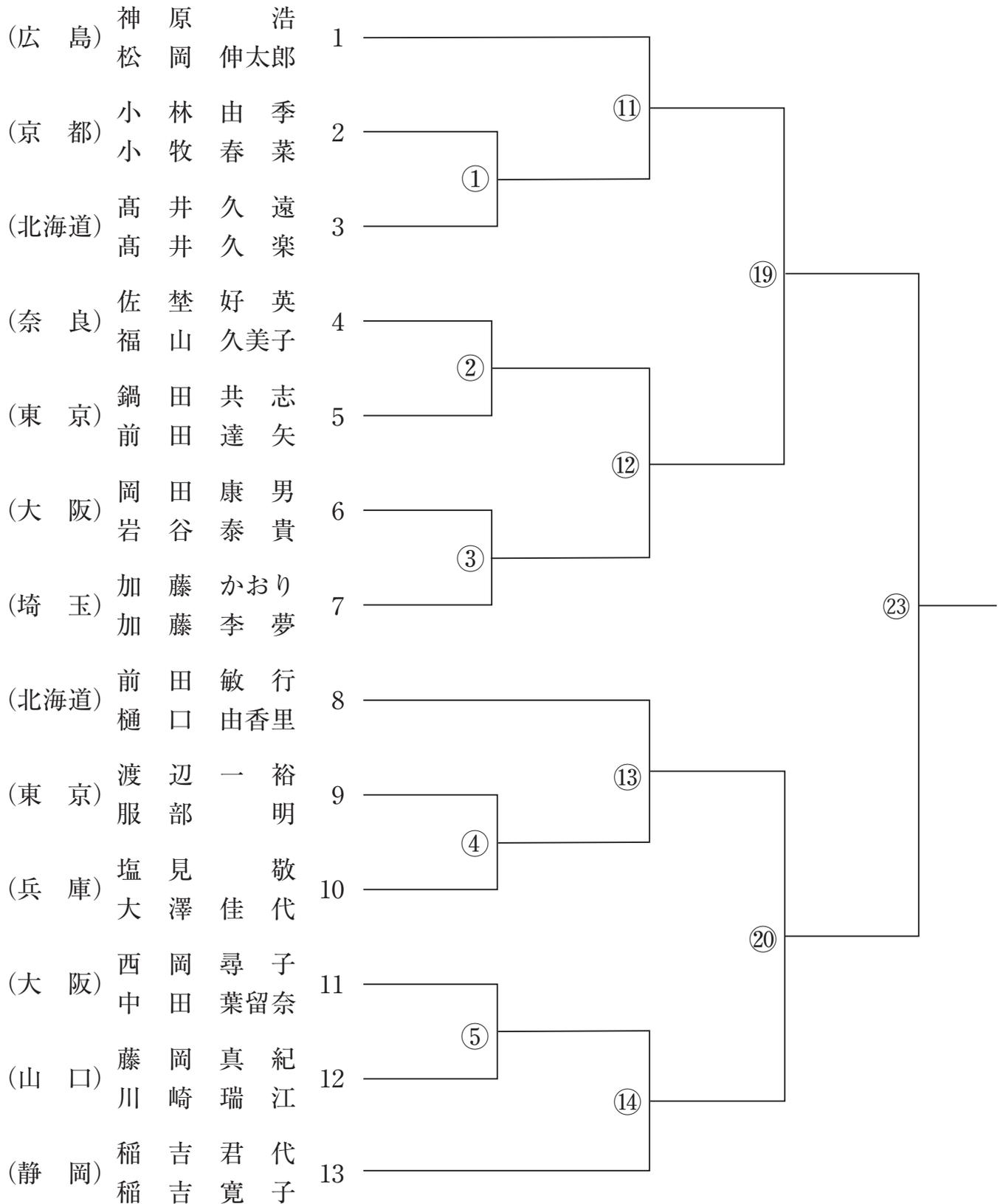


## 第4試合場



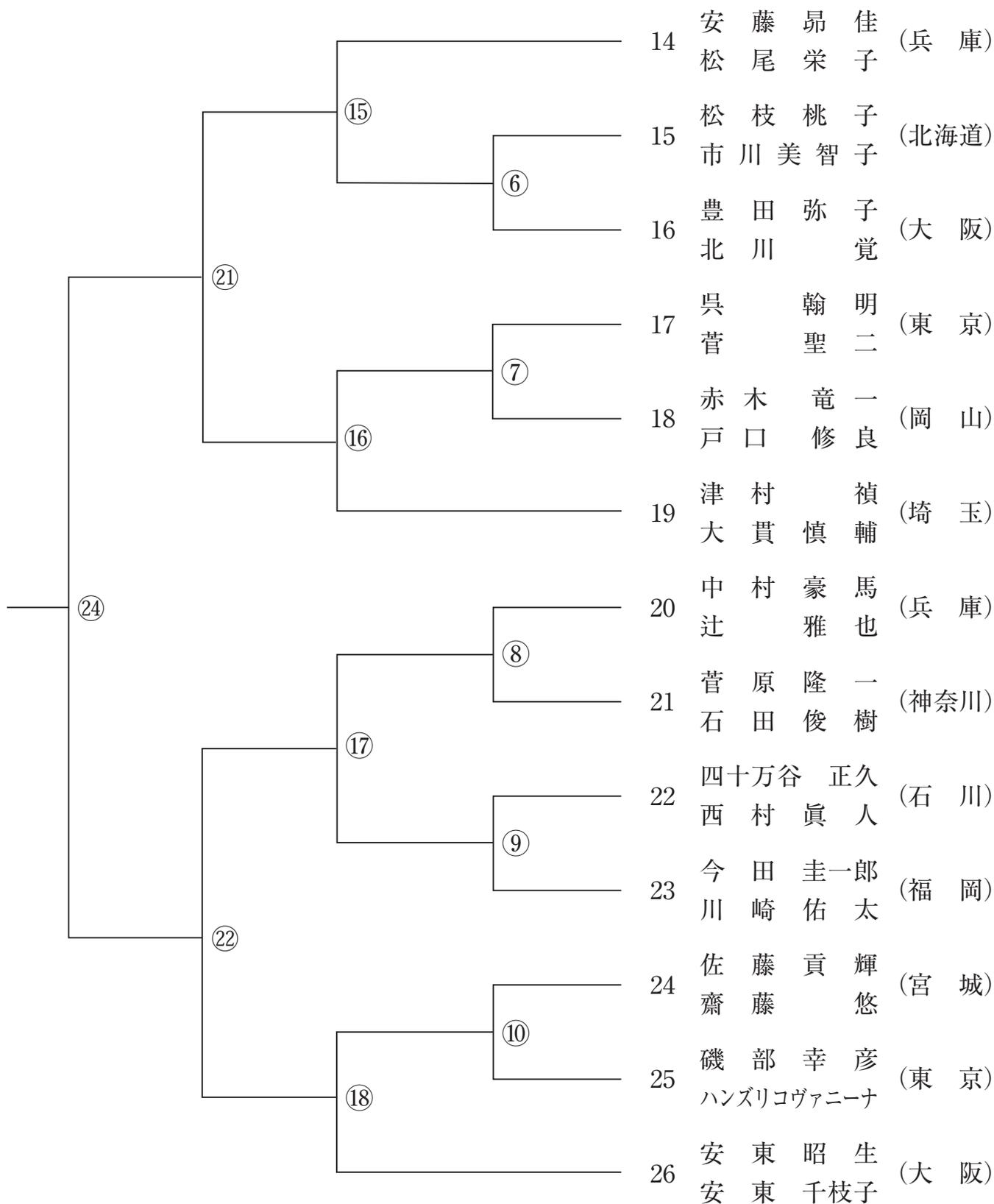
# 全日本杖道大会

## 第3試合場



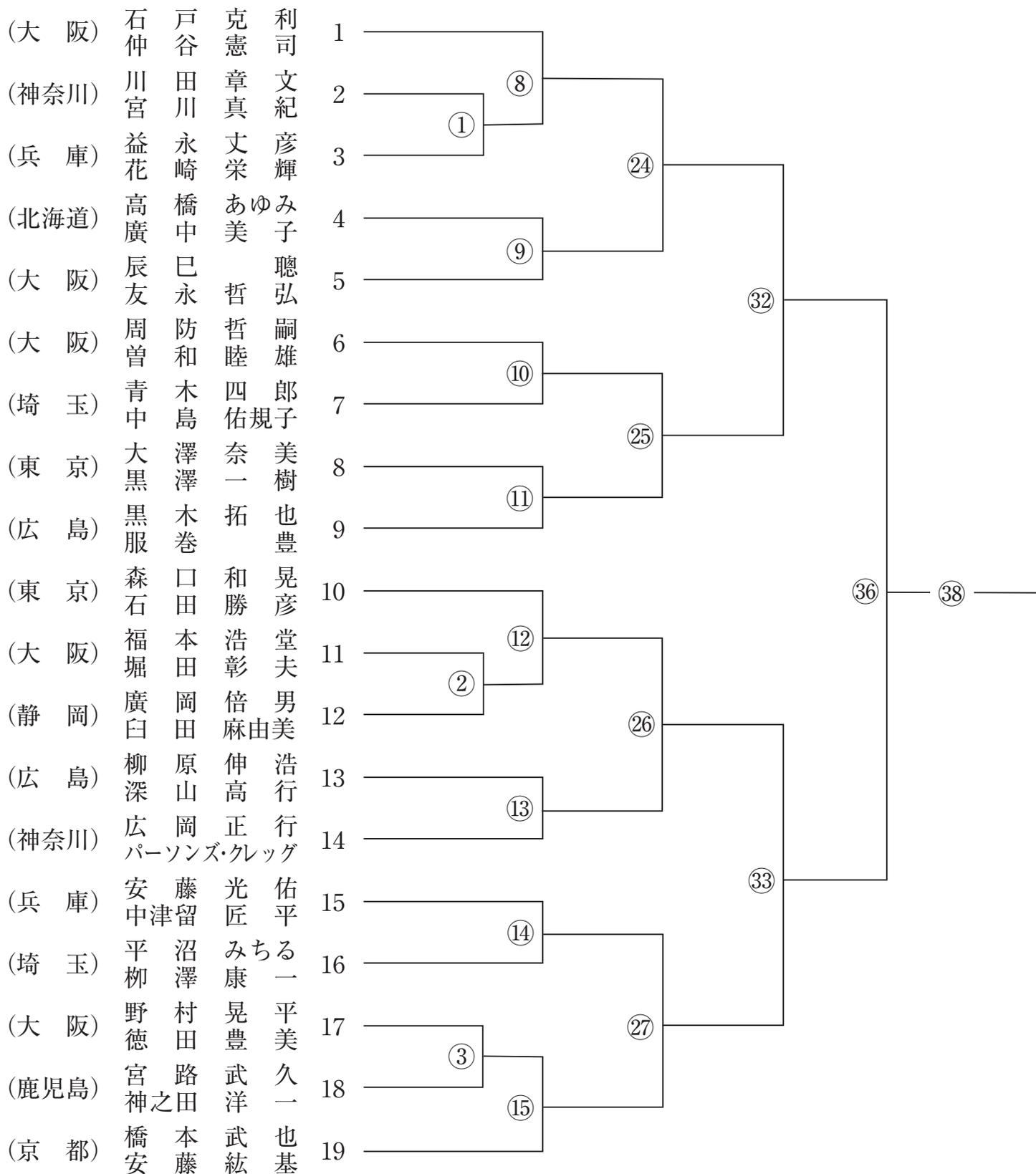
# 組合せ (三段の部)

## 第4試合場



# 全日本杖道大会

## 第1試合場



# 組合せ (四段の部)

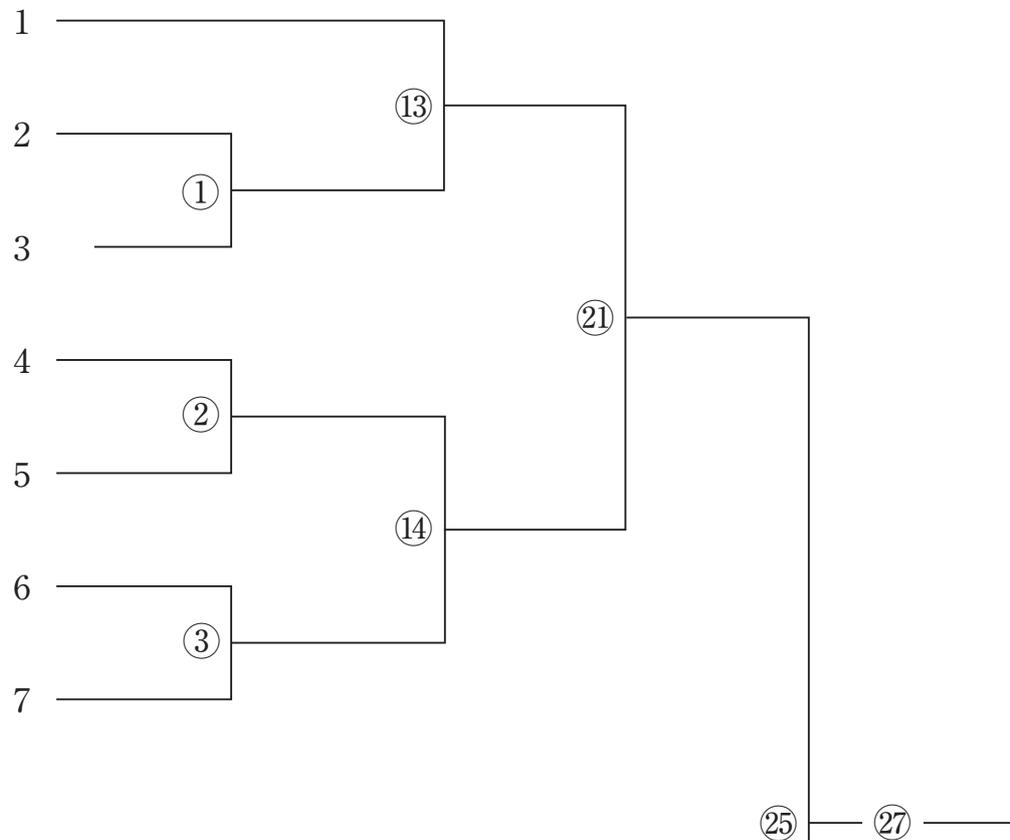
## 第2試合場



# 全日本杖道大会

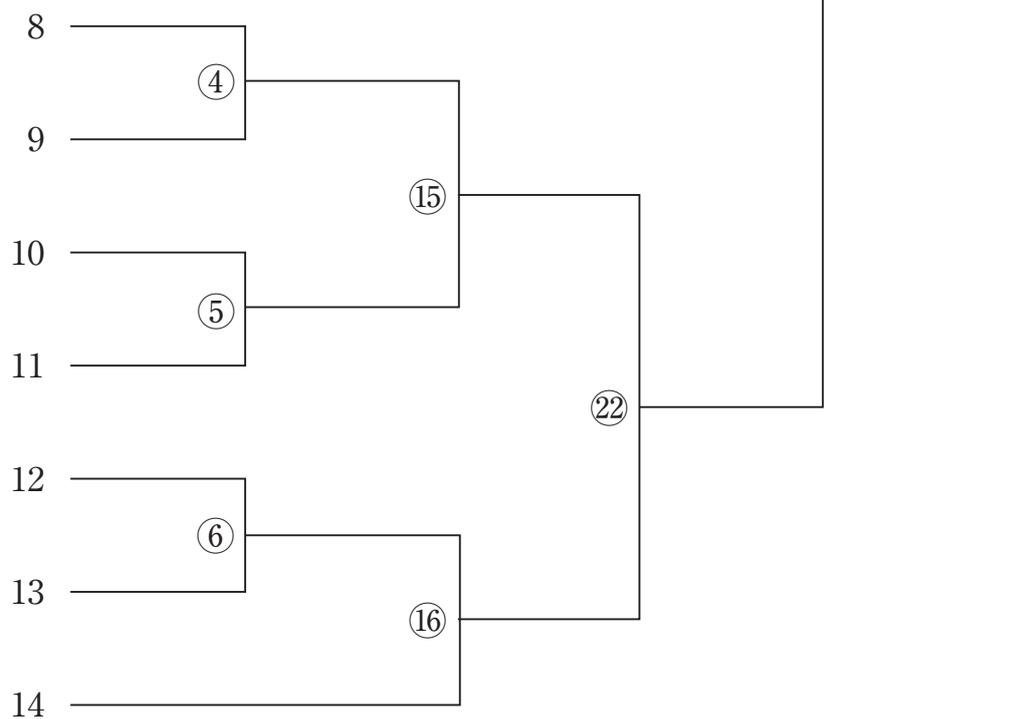
## 第1試合場

(兵庫)	山森	本本	久嘉	雄彦
(東京)	土楠	屋崎	安真	男央
(北海道)	山古	本野	直聖	人見
(奈良)	竹重	田富	昌良	行介
(埼玉)	天山	羽田	淑優	子希
(大阪)	竹細	井見	康陽	哲二
(神奈川)	森藤	本野	康憲	文介



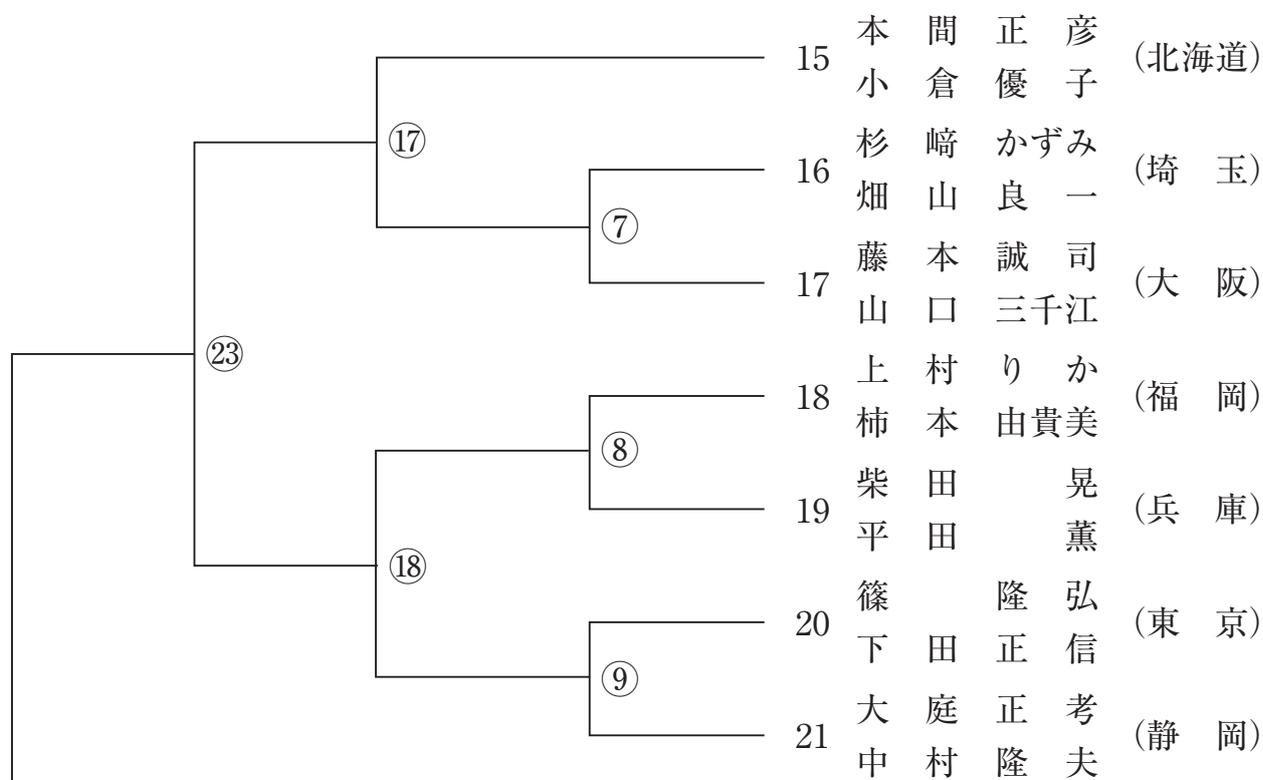
## 第2試合場

(神奈川)	長谷川	澄貴	子紀
(京都)	矢崎	川光	拓篤
(埼玉)	中米	枝原	大仁
(大阪)	今石	原西	邦彦
(東京)	篠小	田田	大令
(沖縄)	吉吉	田良	みどり
(兵庫)	平池	良城	安英
	寺横	田田	守市

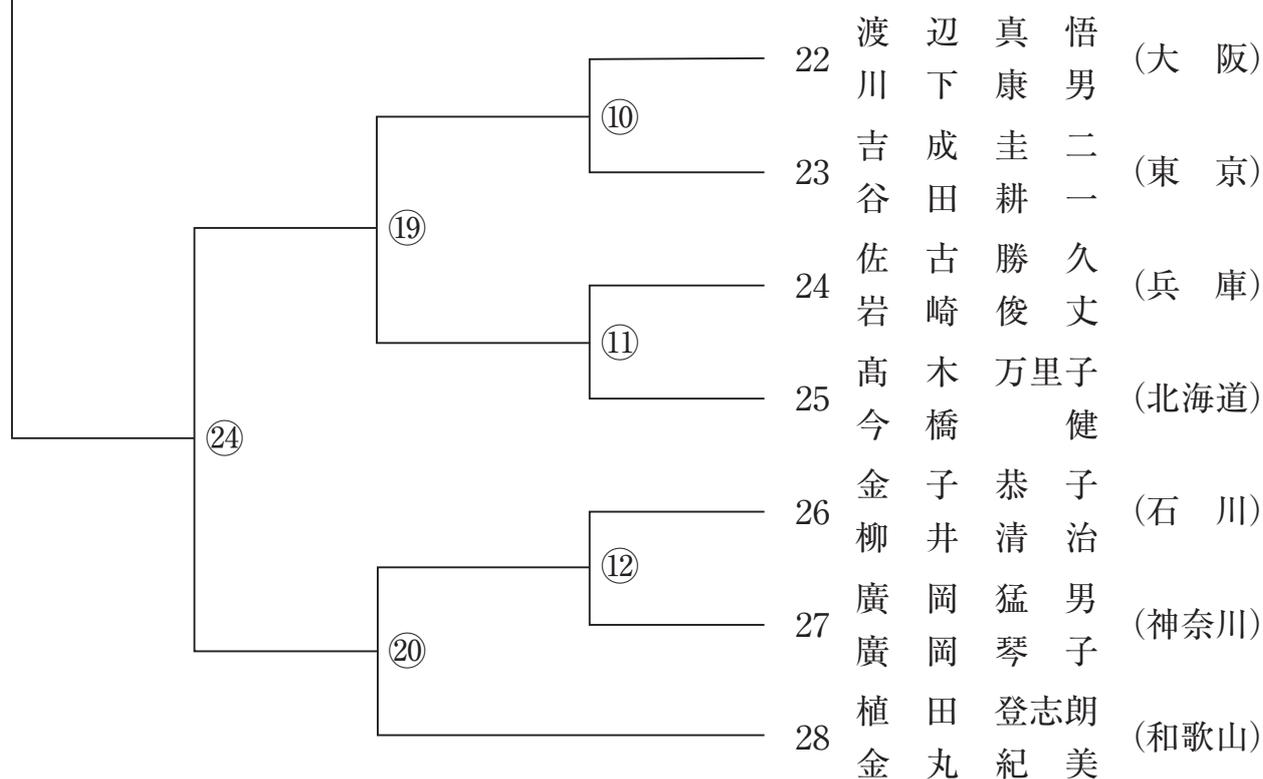


# 組合せ (五段の部)

## 第3試合場

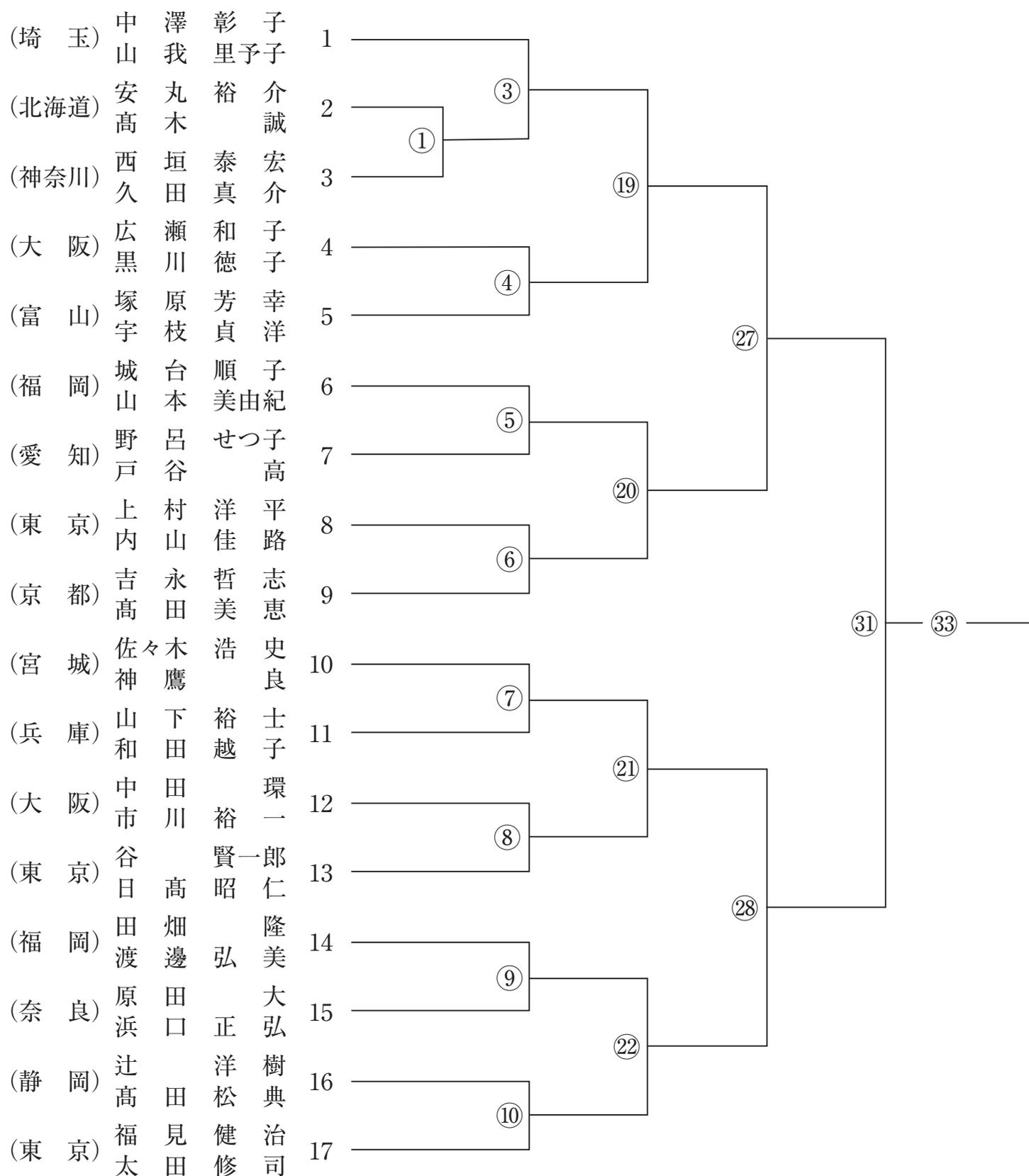


## 第4試合場



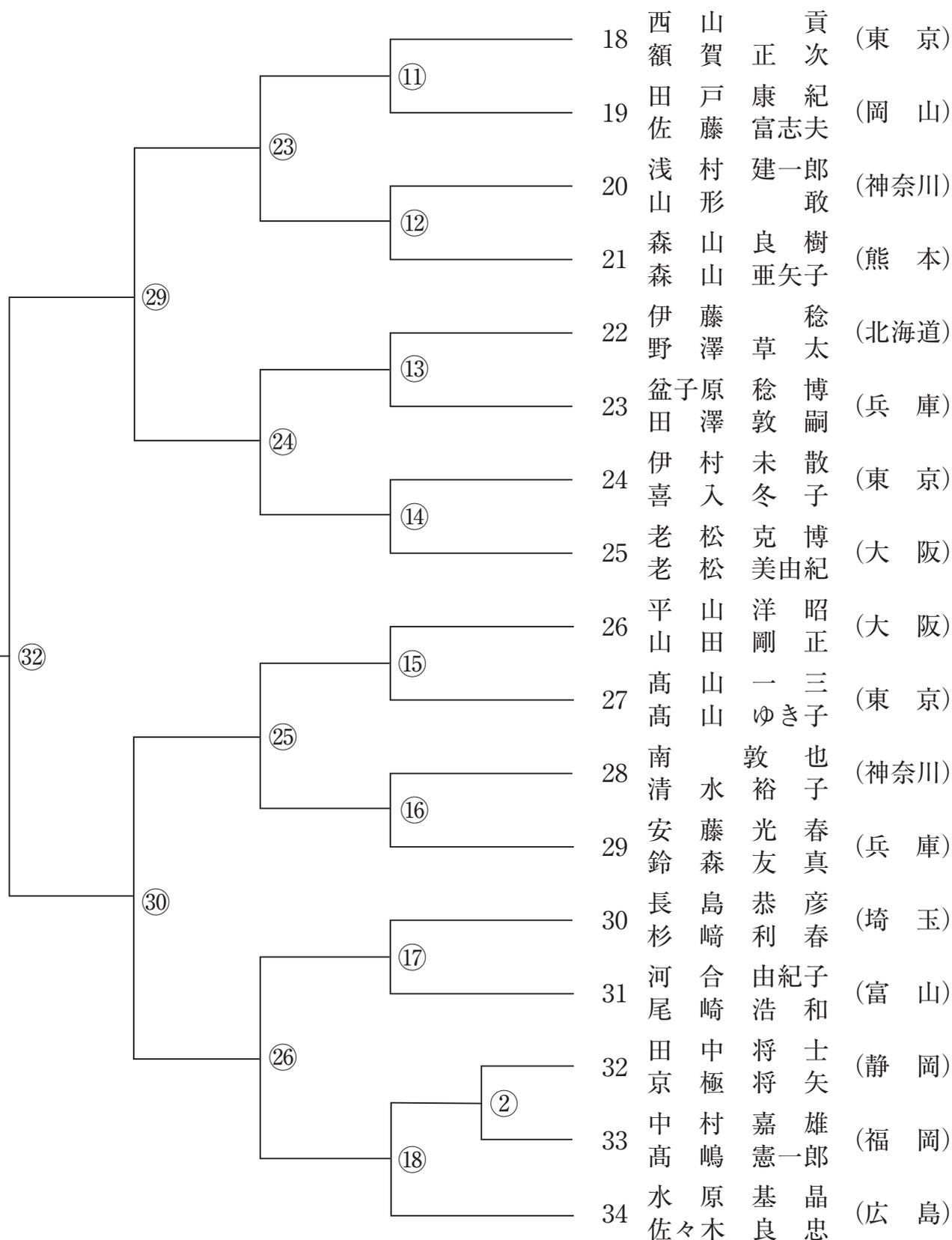
# 全日本杖道大会

## 第1試合場



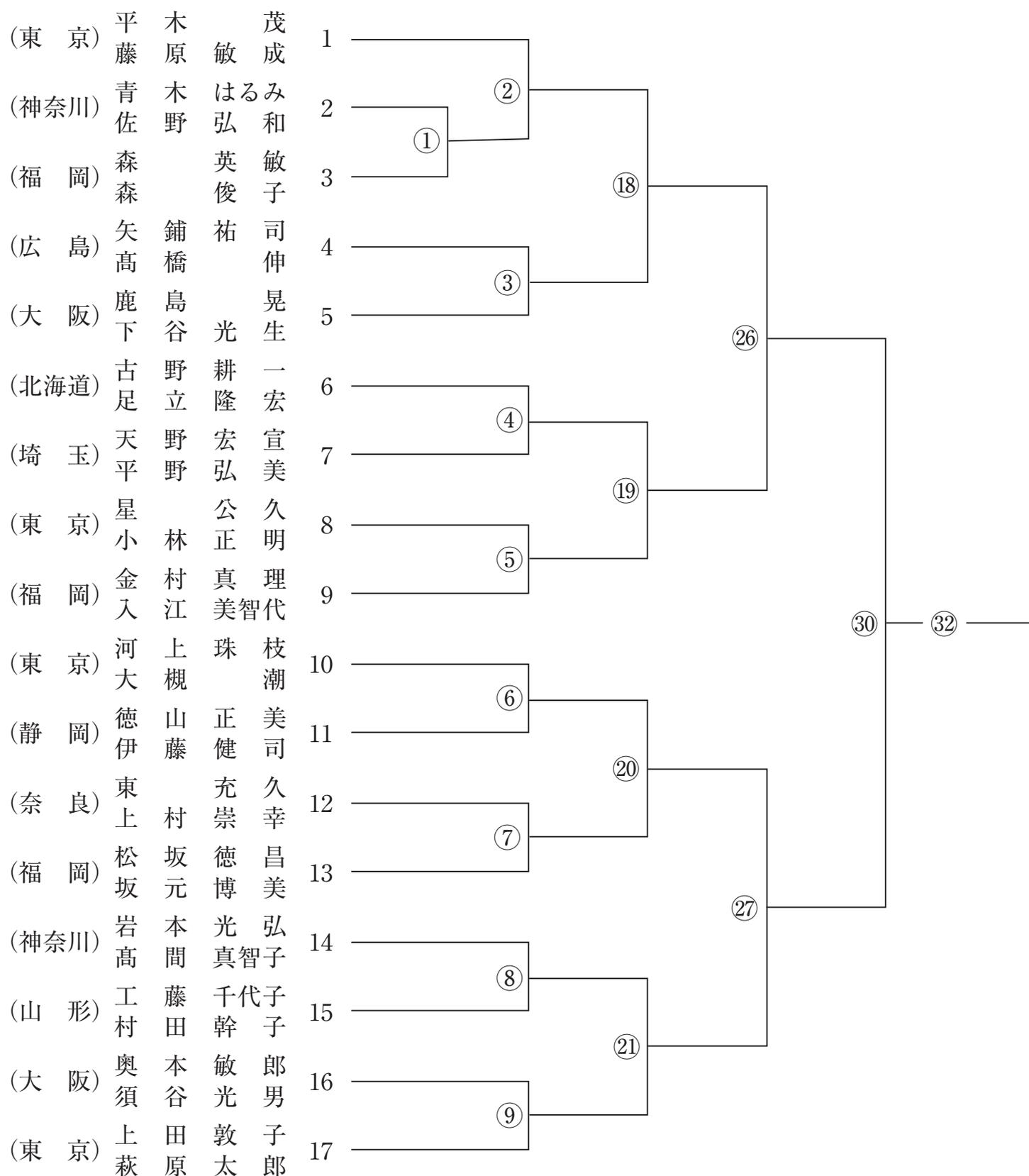
# 組合せ (六段の部)

## 第2試合場



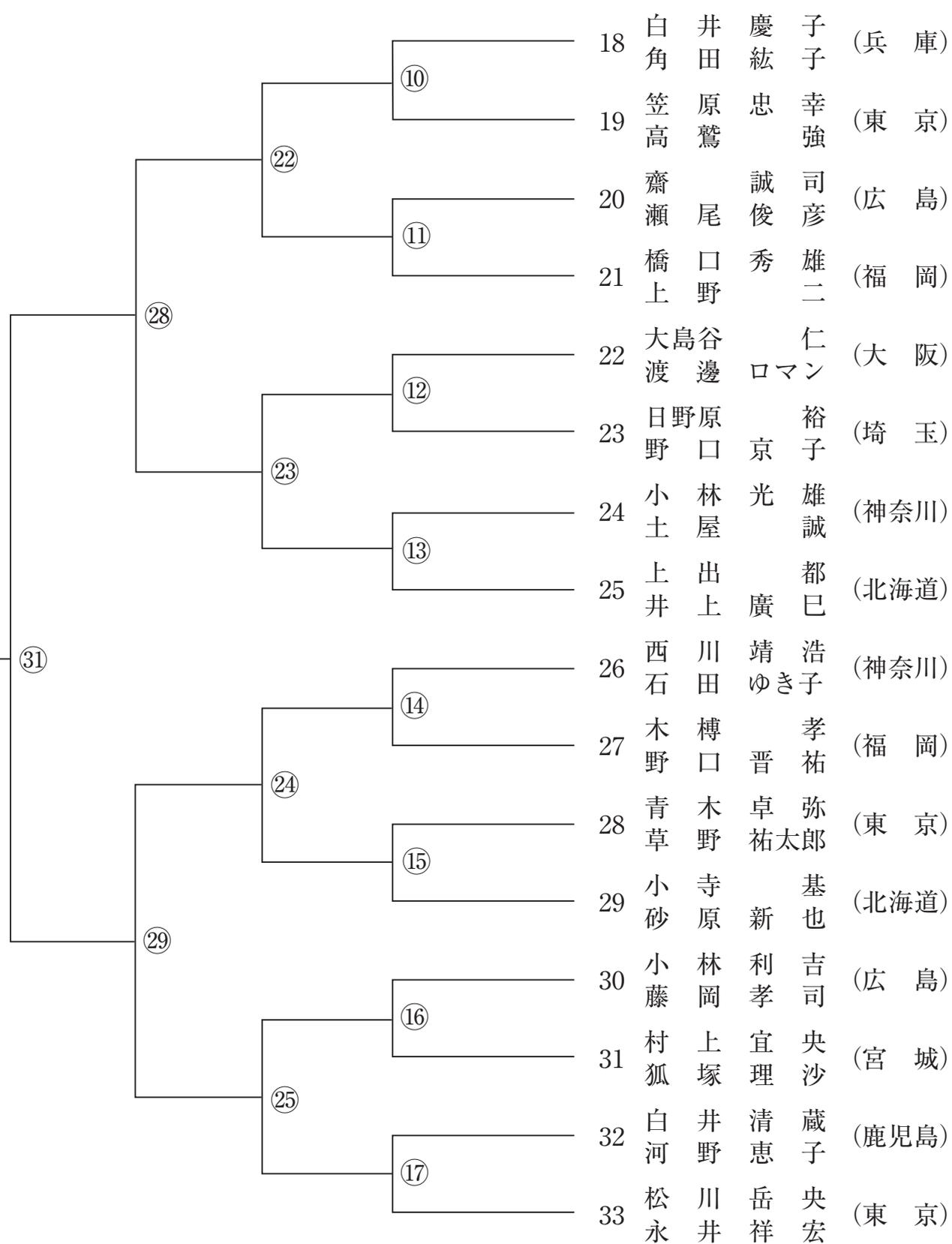
# 全日本杖道大会

## 第3試合場



# 組合せ (七段の部)

## 第4試合場



## 個人演武 (全剣連杖道の部)

### 立 会

範 士 椎 屋 光 男

#### 「打」

#### 「仕」

1	A組	範士八段	黒郷源慈	(広島)	——	範士八段	藤崎興朗	(東京)
2	B組	範士八段	釣賀敏郎	(東京)	——	範士八段	安丸進	(北海道)
3	A組	範士八段	村上直隆	(宮城)	——	範士八段	大竹俊行	(神奈川)
4	B組	範士八段	神代孝一	(福岡)	——	範士八段	椿二三夫	(東京)
5	A組	教士八段	村上和雄	(和歌山)	——	教士八段	清水勇二	(東京)
6	B組	教士八段	本上田保	(広島)	——	教士八段	坂水上亨	(大阪)
7	A組	教士八段	森井美津男	(東京)	——	教士八段	庄司敬一	(宮城)
8	B組	教士八段	安部恵一	(神奈川)	——	教士八段	上田花代子	(埼玉)
9	A組	教士八段	小野景久	(長野)	——	教士八段	鬼木正道	(福岡)
10	B組	教士八段	江藤友子	(福岡)	——	教士八段	松本保典	(埼玉)
11	A組	教士八段	村上繁司	(宮城)	——	教士八段	松宮脇誠吾	(広島)
12	B組	教士八段	服部知司	(大阪)	——	教士八段	三浦康典	(東京)
13	A組	教士七段	滝口功	(山形)	——	教士七段	上田敦子	(東京)
14	B組	教士七段	藤井喜代子	(京都)	——	教士七段	石原靖子	(兵庫)
15	A組	教士七段	佐藤昭雄	(岩手)	——	教士七段	前田新吾	(愛知)
16	B組	教士七段	近藤真佐雄	(大阪)	——	教士七段	萩原太郎	(東京)
17	A組	教士七段	木村通男	(兵庫)	——	教士七段	工藤千代子	(山形)
18	B組	教士七段	村上宜央	(宮城)	——	教士七段	平木茂	(東京)
19	A組	教士七段	古谷重勝	(大阪)	——	教士七段	高嶋由紀	(福岡)
20	B組	教士七段	白井清蔵	(鹿児島)	——	教士七段	ビットマン・ハイコ	(石川)
21	A組	錬士七段	小瀬林正明	(東京)	——	錬士七段	木根義徳	(三重)
22	B組	錬士七段	瀬尾俊彦	(広島)	——	錬士七段	大槻潮	(東京)
23	A組	錬士七段	河上珠枝	(東京)	——	錬士七段	大塚理沙	(宮城)
24	B組	錬士六段	馬場威夫	(大阪)	——	錬士六段	内山佳路	(東京)
25	A組	錬士六段	上山村平	(東京)	——	錬士六段	河野恵子	(鹿児島)
26	B組	錬士六段	小戸山大	(埼玉)	——	錬士六段	佐々木浩史	(宮城)
27	A組	錬士六段	谷高	(愛知)	——	錬士六段	鎌田真之	(京都)

## 個人演武 (古流の部)

#### 「打」

#### 「仕」

28	A組	範士八段	富永彰三	(福岡)	——	範士八段	福田博文	(福岡)
29	B組	教士八段	神之蘭文男	(神奈川)	——	教士八段	小塚禮子	(神奈川)
30	A組	教士八段	太田安昭	(長野)	——	教士八段	安部幸一路	(大分)
31	B組	教士八段	太田嘉一	(神奈川)	——	教士八段	安時任晴美	(神奈川)
32	A組	教士八段	林映子	(神奈川)	——	教士七段	岩田善信	(神奈川)
33	B組	教士八段	阿部修	(東京)	——	錬士六段	田村のり子	(東京)
34	A組	教士七段	日野原裕	(埼玉)	——	錬士六段	長島恭彦	(埼玉)
35	B組	教士七段	青木卓弥	(東京)	——	教士七段	天野恭宏	(埼玉)
36	A組	教士七段	草野祐太郎	(東京)	——	教士七段	星公久	(東京)
37	B組	教士七段	松川岳央	(東京)	——	錬士七段	永井祥宏	(東京)
38	A組	教士七段	青木はるみ	(神奈川)	——	教士七段	佐野弘和	(神奈川)
39	B組	教士七段	伊藤健司	(静岡)	——	錬士六段	徳山正美	(静岡)
40	A組	教士七段	上野二	(福岡)	——	錬士六段	中村嘉雄	(福岡)
41	B組	錬士六段	原田大	(奈良)	——	錬士七段	上村崇幸	(奈良)
42	A組	錬士六段	福見健	(東京)	——	錬士六段	太田修司	(東京)
43	B組	錬士六段	福村誠	(広島)	——	錬士六段	下野一成	(神奈川)

## 過去の記録

回数	期日・場所	第 一 位
第1回	昭和49年8月4日(日) 芝学園 (東京都)	[五段の部] 山下 貞利・織方 章 組 〈福岡〉 [四段の部] 大里 耕平・奥野 堯昭 組 〈東京〉 [三段の部] 井端 満・佐藤 成孝 組 〈大阪〉 [二段の部] 広瀬 淳・初田 幸助 組 〈東京〉 [初段以下] 安宅 文子・金子 英子 組 〈東京〉
第2回	昭和50年8月3日(日) 早稲田大学記念会堂 (東京都)	[五段の部] 古川 瞬也・小林 勇彦 組 〈東京〉 [四段の部] 荒井 洋・椎屋 光男 組 〈東京〉 [三段の部] 生田 正治・森 忠義 組 〈東京〉 [二段の部] 安宅 文子・原 紹子 組 〈東京〉 [初段以下] 池原 一義・石河 和彦 組 〈大阪〉
第3回	昭和51年7月25日(日) 巣鴨学園ギムナシオン (東京都)	[五段の部] 古川 瞬也・荒井 洋 組 〈東京〉 [四段の部] 黒郷 源慈・内藤 五雄 組 〈東京〉 [三段の部] 山口 薫・大竹 俊行 組 〈神奈川〉 [二段の部] 福田 健・高橋 公 組 〈東京〉 [初段以下] 田中 晶子・大草 早苗 組 〈東京〉
第4回	昭和52年7月31日(日) 巣鴨学園ギムナシオン (東京都)	[五段の部] 大里 耕平・清水 勇二 組 〈東京〉 [四段の部] 片山 伸一・柞山 茂克 組 〈東京〉 [三段の部] 原 紹子・羽石智恵子 組 〈東京〉 [二段の部] 和田 文雄・小林 勝義 組 〈東京〉 [初段以下] 一関 祐子・田村 英路 組 〈東京〉
第5回	昭和53年7月30日(日) 巣鴨学園ギムナシオン (東京都)	[五段の部] 内藤 五雄・大里 耕平 組 〈東京〉 [四段の部] 黒郷 源慈・山口 高治 組 〈東京〉 [三段の部] 江澤 義信・阿部 修 組 〈東京〉 [二段の部] 藤崎 興朗・一関 祐子 組 〈東京〉 [初段以下] 庄司 敬一・砂金 博之 組 〈宮城〉
第6回	昭和54年7月29日(日) 巣鴨学園ギムナシオン (東京都)	[五段の部] 片山 伸一・斎藤 勝彦 組 〈東京〉 [四段の部] 江澤 義信・阿部 修 組 〈東京〉 [三段の部] 篠原 保・小林 幹正 組 〈東京〉 [二段の部] 河崎 清二・矢野 良 組 〈愛媛〉 [初段以下] 清水 徳子・正岡なぎさ 組 〈愛媛〉
第7回	昭和55年7月20日(日) 巣鴨学園ギムナシオン (東京都)	[五段の部] 荒井 洋・椎屋 光男 組 〈東京〉 [四段の部] 西川 忠邦・篠原 良一 組 〈東京〉 [三段の部] 太田 安昭・田村 英路 組 〈東京〉 [二段の部] 布施 広幸・永井 隆 組 〈東京〉 [初段以下] 林 映子・浜野 圭子 組 〈神奈川〉
第8回	昭和56年7月26日(日) 巣鴨学園ギムナシオン (東京都)	[五段の部] 岡本 義一・中村 達猪 組 〈福岡〉 [四段の部] 江澤 義信・阿部 修 組 〈東京〉 [三段の部] 釣賀 敏郎・藤崎 興朗 組 〈東京〉 [二段の部] 矢野多衛子・林 映子 組 〈神奈川〉 [初段以下] 草野知三良・佐藤 篤範 組 〈東京〉

回数	期日・場所	第 一 位
第9回	昭和57年8月29日(日) 福岡武道館 (福岡県)	[五段の部] 江澤 義信・阿部 修 組〈東京〉 [四段の部] 古川 一雄・青木 良一 組〈東京〉 [三段の部] 有吉 潤哉・岡村 典昭 組〈福岡〉 [二段の部] 石井 俊治・日高 満弥 組〈福岡〉 [初段以下] 草野知三良・佐藤 篤範 組〈東京〉
第10回	昭和58年7月31日(日) 巣鴨学園ギムナシオン (東京都)	[五段の部] 山口 薫・大竹 俊行 組〈神奈川〉 [四段の部] 小塚 禮子・関山 修 組〈神奈川〉 [三段の部] 林 映子・矢野多衛子 組〈神奈川〉 [二段の部] 佐藤 篤範・菅原 清孝 組〈東京〉 [初段の部] 薩川 璋子・新村 萬藏 組〈福岡〉
第11回	昭和59年8月5日(日) 巣鴨学園ギムナシオン (東京都)	[五段の部] 阿部 修・江澤 義信 組〈東京〉 [四段の部] 釣賀 敏郎・藤崎 興朗 組〈東京〉 [三段の部] 岡村 典昭・波止 容子 組〈福岡〉 [二段の部] 白井 清藏・馬場 好章 組〈大阪〉 [初段の部] 仲田 博信・岩崎 光治 組〈大阪〉
第12回	昭和60年8月4日(日) 三原市円一町 リージョンプラザ体育館 (広島県)	[五段の部] 中村 幸夫・森 恪 組〈福岡〉 [四段の部] 林 映子・矢野多衛子 組〈神奈川〉 [三段の部] 波止 容子・薩川 璋子 組〈福岡〉 [二段の部] 中西 一孝・島原 義輝 組〈福岡〉 [初段の部] 高浪進一郎・有吉 孝一 組〈福岡〉
第13回	昭和61年8月3日(日) 大阪市立東淀川体育館 (大阪府)	[五段の部] 森本 訓史・田所 通子 組〈大阪〉 [四段の部] 波止 容子・有吉 潤哉 組〈福岡〉 [三段の部] 朱雀 道子・木村 栄子 組〈福岡〉 [二段の部] 池永 和哉・苅谷 浩之 組〈大阪〉 [初段の部] 笠谷 哲次・上永俊亥治 組〈大阪〉
第14回	昭和62年8月2日(日) 静岡市中央体育館 (静岡県)	[五段の部] 太田 安昭・加藤 望 組〈東京〉 [四段の部] 波止 容子・朱雀 道子 組〈福岡〉 [三段の部] 藤原 敏成・力武 公平 組〈東京〉 [二段の部] 谷口 法子・世古 俊之 組〈大阪〉 [初段の部] 山本 裕樹・橘高 良和 組〈大阪〉
第15回	昭和63年7月31日(日) 江戸川区スポーツセンター (東京都)	[六段の部] 山口 薫・大竹 俊行 組〈神奈川〉 [五段の部] 神之園文男・小塚 禮子 組〈神奈川〉 [四段の部] 伊藤 晋次・朱雀 道子 組〈福岡〉 [三段の部] 坂上 亨・笠谷 哲次 組〈大阪〉 [二段の部] 矢ヶ部龍一郎・ボギキャン・ジョージ 組〈福岡〉 [初段の部] 井上 真一・進藤 眞 組〈大阪〉
第16回	平成元年8月6日(日) 江戸川区スポーツセンター (東京都)	[六段の部] 山口 薫・大竹 俊行 組〈神奈川〉 [五段の部] 草野知三良・阿出川篤範 組〈東京〉 [四段の部] 亀井 伸一・中野 伊織 組〈大阪〉 [三段の部] 濱口 誠藏・上村 一郎 組〈東京〉 [二段の部] 下野 一成・関根 進緑 組〈東京〉 [初段の部] 下村 卓・岩渕 太美 組〈東京〉

回数	期日・場所	第 一 位
第17回	平成2年8月5日(日) 江戸川区スポーツセンター (東京都)	[六段の部] 太田 安昭・篠原 良一 組 〈東京〉 [五段の部] 神之藪文男・小塚 禮子 組 〈神奈川〉 [四段の部] 藤原 敏成・力武 公平 組 〈東京〉 [三段の部] 神代 昌明・矢ヶ部龍一郎 組 〈福岡〉 [二段の部] 菊谷 暁・福沢 功 組 〈東京〉 [初段の部] 花田 武・柴田 啓 組 〈福岡〉
第18回	平成3年8月4日(日) 江戸川区スポーツセンター (東京都)	[六段の部] 小塚 禮子・神之藪文男 組 〈神奈川〉 [五段の部] 藤原 敏成・力武 公平 組 〈東京〉 [四段の部] 高浪進一郎・矢ヶ部龍一郎 組 〈東京〉 [三段の部] 瀬戸 光司・時任 晴美 組 〈神奈川〉 [二段の部] 原田 三紀・荒槇 美和 組 〈広島〉 [初段の部] 疋田 修士・麻田 彰子 組 〈大阪〉
第19回	平成4年8月2日(日) 江戸川区スポーツセンター (東京都)	[六段の部] 太田 安昭・加藤 望 組 〈東京〉 [五段の部] 山口 道子・白井 清藏 組 〈神奈川〉 [四段の部] 関根 進緑・下野 一成 組 〈東京〉 [三段の部] 菊谷 暁・福沢 功 組 〈東京〉 [二段の部] 久田 孝博・堀米 俊明 組 〈神奈川〉 [初段の部] 藤沢 正樹・石田 敦 組 〈大阪〉
第20回	平成5年8月1日(日) 広島市東区 スポーツセンター (広島県)	[六段の部] 釣賀 敏郎・藤崎 興朗 組 〈東京〉 [五段の部] 山口 道子・白井 清藏 組 〈神奈川〉 [四段の部] 矢ヶ部龍一郎・松山 一之 組 〈福岡〉 [三段の部] 菊谷 暁・福沢 功 組 〈東京〉 [二段の部] 國方 孝之・宮脇 誠吾 組 〈広島〉 [初段の部] 小林 道弘・竹尾 祥充 組 〈広島〉
第21回	平成6年7月31日(日) 宮城県スポーツセンター (宮城県)	[六段の部] 林 映子・矢野多衛子 組 〈神奈川〉 [五段の部] 山口 道子・白井 清藏 組 〈神奈川〉 [四段の部] 時任 晴美・瀬戸 光司 組 〈神奈川〉 [三段の部] 宮脇 誠吾・原田 三紀 組 〈広島〉 [二段の部] 小山 則夫・梅沢 隆夫 組 〈東京〉 [初段の部] 小林 一規・小池スエ子 組 〈長野〉
第22回	平成7年10月8日(日) 福岡武道館 (福岡県)	[六段の部] 林 映子・矢野多衛子 組 〈神奈川〉 [五段の部] 鬼木 正道・古澤 裕二 組 〈福岡〉 [四段の部] 平原 喜孝・時任 晴美 組 〈神奈川〉 [三段の部] 三留さえ子・入江美智代 組 〈福岡〉 優秀賞 上野加代子・上田 敦子 組 〈東京〉 [二段の部] 辻辺 美紀・柿原 里志 組 〈広島〉 優秀賞 梅沢 隆夫・小山 則夫 組 〈東京〉 [初段の部] 小川内泰生・野口 藍 組 〈福岡〉 優秀賞 奥田 省三・島津加奈子 組 〈広島〉

回数	期日・場所	第 一 位
第23回	平成8年10月6日(日) 南足柄市体育センター (神奈川県)	[七段の部] 神代 孝一・乙藤美津子 組〈福岡〉 [六段の部] 和田日出光・岡村 典昭 組〈東京〉 [五段の部] 鹿島 晃・坂上 亨 組〈大阪〉 [四段の部] 下川 秀美・米田 廉 組〈福岡〉 [三段の部] 宮脇 誠吾・國方 孝之 組〈広島〉 優秀賞 五味 恭一・山田 善興 組〈長野〉 [二段の部] 小林 一規・小池スエ子 組〈長野〉 優秀賞 今井 敏喜・山田 昇 組〈長野〉 [初段の部] 土亀 誠・世利 慎吾 組〈福岡〉 優秀賞 宮川 富子・宮田 勝一 組〈福岡〉
第24回	平成9年10月5日(日) 江戸川区スポーツセンター (東京都)	[七段の部] 小塚 禮子・神之藺文男 組〈神奈川〉 [六段の部] 林 映子・矢野多衛子 組〈神奈川〉 [五段の部] 下野 一成・安田 嘉一 組〈神奈川〉 [四段の部] 上田 睦也・持田 均 組〈東京〉 [三段の部] 小林 一規・小池スエ子 組〈長野〉 優秀賞 森井加代子・上田 敦子 組〈東京〉 [二段の部] 森岡 勝昭・中川 陽介 組〈大阪〉 優秀賞 高橋 伸・島津加奈子 組〈広島〉 [初段の部] 永井 祥宏・清水 英男 組〈東京〉 優秀賞 坂口 隆憲・野口 晋祐 組〈福岡〉
第25回	平成10年10月4日(日) 大阪市立東淀川体育館 (大阪府)	[七段の部] 山口 董・大竹 俊行 組〈神奈川〉 [六段の部] 池原 一義・坂上 亨 組〈大阪〉 [五段の部] 下野 一成・時任 晴美 組〈神奈川〉 [四段の部] 森井加代子・上田 敦子 組〈東京〉 [三段の部] 辻辺 美紀・井内 智美 組〈広島〉 優秀賞 高橋 伸・島津加奈子 組〈広島〉 [二段の部] 宮田 勝一・森岡 勝昭 組〈大阪〉 優秀賞 相原 健児・加藤 直也 組〈神奈川〉 [初段の部] 市原 孝・高間真智子 組〈神奈川〉 優秀賞 上野 二・高良 英臣 組〈福岡〉
第26回	平成11年10月3日(日) 江戸川区スポーツセンター (東京都)	[七段の部] 神之藺文男・小塚 禮子 組〈神奈川〉 [六段の部] 迫田文博・クリスマスフィールド 組〈神奈川〉 [五段の部] 庄司 正幸・工藤千代子 組〈山形〉 [四段の部] 津川秀夫・ジョージアセヴェド 組〈東京〉 [三段の部] 齊藤 嘉教・岩本 光弘 組〈東京〉 優秀賞 高橋 伸・島津加奈子 組〈広島〉 [二段の部] 伊橋 淳子・末石 澄恵 組〈福岡〉 優秀賞 矢野 卓慈・花ノ井一弥 組〈東京〉 [初段の部] 伊橋 慶・杵島 勉 組〈福岡〉 優秀賞 樋渡 賢太・関 展秀 組〈東京〉

回数	期日・場所	第 一 位
第27回	平成12年10月8日(日) 江戸川区スポーツセンター (東京都)	[七段の部] 福田 博文・神代 孝一 組 〈福岡〉 [六段の部] 近藤眞佐雄・坂上 亨 組 〈大阪〉 [五段の部] 入江美智代・橋口 秀雄 組 〈福岡〉 [四段の部] 森井加代子・上田 敦子 組 〈東京〉 [三段の部] 宗像 純子・住吉美代子 組 〈北海道〉 優秀賞 沼田 範行・古野 耕一 組 〈北海道〉 [二段の部] 豊田 泰生・山岸 啓哉 組 〈東京〉 優秀賞 松下 俊夫・関 展秀 組 〈東京〉 [初段の部] 渡辺 直人・大野 寿子 組 〈東京〉 優秀賞 中村 敬介・松谷 利信 組 〈福岡〉
第28回	平成13年10月7日(日) 江戸川区スポーツセンター (東京都)	[七段の部] 矢野多衛子・林 映子 組 〈神奈川〉 [六段の部] 白井 清蔵・鬼木 正道 組 〈福岡〉 [五段の部] 時任 晴美・下野 一成 組 〈神奈川〉 [四段の部] 森井加代子・上田 敦子 組 〈東京〉 [三段の部] 伊橋 淳子・末石 澄恵 組 〈福岡〉 優秀賞 沼田 範行・古野 耕一 組 〈東京〉 [二段の部] 高橋 英士・水原 基晶 組 〈広島〉 優秀賞 小野 敦・小野寺 愛 組 〈埼玉〉 [初段の部] 大庭 正考・久家 秀宜 組 〈福岡〉 優秀賞 鹿江 由紀・坂口 研一 組 〈福岡〉
第29回	平成14年10月6日(日) 北海道立総合体育センター (北海道)	[七段の部] 福田 博文・神代 孝一 組 〈福岡〉 [六段の部] 天野 宏宣・上田花代子 組 〈埼玉〉 [五段の部] 森井加代子・上田 敦子 組 〈東京〉 [四段の部] 宗像 純子・住吉美代子 組 〈北海道〉 [三段の部] 古野 耕一・成田 重信 組 〈北海道〉 優秀賞 永井 祥宏・内山 隆太 組 〈東京〉 [二段の部] 藤原 早苗・清水 隆樹 組 〈北海道〉 優秀賞 井上 廣己・那須 勉 組 〈北海道〉 [初段の部] 堺 彪・橋口 弘美 組 〈福岡〉 優秀賞 小寺 基・西田真由美 組 〈北海道〉
第30回	平成15年10月12日(日) 江戸川区スポーツセンター (東京都)	[七段の部] 釣賀 敏郎・藤崎 興朗 組 〈東京〉 [六段の部] 白井 清蔵・鬼木 正道 組 〈福岡〉 [五段の部] 時任 晴美・赤木 孝子 組 〈神奈川〉 [四段の部] 橋本 幸士・矢羽田 直 組 〈福岡〉 [三段の部] 伊橋 慶・伊橋 淳子 組 〈福岡〉 優秀賞 木樽 孝・佐野 弘和 組 〈神奈川〉 [二段の部] 清水 隆樹・大橋 信彦 組 〈北海道〉 優秀賞 塩田 悟士・柴野 和人 組 〈北海道〉 [初段の部] 川越麻奈帆・小道 有紗 組 〈広島〉 優秀賞 松丸絹枝・ジョコプリヤント 組 〈福岡〉

回数	期日・場所	第 一 位
第31回	平成16年10月3日(日) 愛媛県武道館 (愛媛県)	[七段の部] 安野 裕子・岡部 盛重 組 〈愛 媛〉 [六段の部] 下野 一成・時任 晴美 組 〈神奈川〉 [五段の部] 下川 秀美・米田 廉 組 〈福 岡〉 [四段の部] 宮田 勝一・足立 隆宏 組 〈北海道〉 [三段の部] 小家 隆博・鹿江 由紀 組 〈福 岡〉 優秀賞 久家 秀宣・伊橋 慶 組 〈福 岡〉 [二段の部] 石田 博美・住本俊一郎 組 〈鹿児島〉 優秀賞 岩田みどり・神之藺知香 組 〈神奈川〉 [初段の部] 藤原 淳・玉田 治三 組 〈愛 媛〉 優秀賞 松岡 耕毅・千葉由美子 組 〈北海道〉
第32回	平成17年10月2日(日) 宮城県スポーツセンター (宮城県)	[七段の部] 福田 博文・森 恪 組 〈福 岡〉 [六段の部] 下野 一成・時任 晴美 組 〈神奈川〉 [五段の部] 宮脇 誠吾・宮脇加奈子 組 〈広 島〉 [四段の部] 宮田 勝一・古野 耕一 組 〈北海道〉 [三段の部] 鹿江 由紀・橋口 弘美 組 〈福 岡〉 優秀賞 大庭 正考・久家 秀宣 組 〈福 岡〉 [二段の部] 石田 博美・住本俊一郎 組 〈鹿児島〉 優秀賞 岩田みどり・岩田 高明 組 〈神奈川〉 [初段の部] 伊藤 稔・千葉 忠侑 組 〈北海道〉 優秀賞 横川 賀代・横川 生敏 組 〈愛 媛〉
第33回	平成18年10月8日(日) 江戸川区スポーツセンター (東京都)	[七段の部] 神之藺文男・安田 嘉一 組 〈神奈川〉 [六段の部] 時任 晴美・下野 一成 組 〈神奈川〉 [五段の部] 齋藤 嘉教・岩本 光弘 組 〈神奈川〉 [四段の部] 瀬川 洋平・小家 隆博 組 〈福 岡〉 [三段の部] 石田 博美・住本俊一郎 組 〈鹿児島〉 優秀賞 高嶋 由紀・橋口 弘美 組 〈福 岡〉 [二段の部] 松尾 静香・池崎 寿美 組 〈福 岡〉 優秀賞 丸山 貴弘・中村美代子 組 〈東 京〉 [初段の部] 伊藤 稔・浅井 康孝 組 〈北海道〉 優秀賞 佐倉 康隆・谷口 裕基 組 〈広 島〉
第34回	平成19年10月7日(日) 福岡市民体育館 (福岡県)	[七段の部] 釣賀 敏郎・藤崎 興朗 組 〈東 京〉 [六段の部] 時任 晴美・下野 一成 組 〈神奈川〉 [五段の部] 宮田 勝一・宗像 純子 組 〈北海道〉 [四段の部] 伊橋 慶・伊橋 淳子 組 〈福 岡〉 [三段の部] 松本 葉子・狐塚 理沙 組 〈宮 城〉 優秀賞 西原 正人・玉田 治三 組 〈愛 媛〉 [二段の部] 出淵 靖志・亀井 洋祐 組 〈兵 庫〉 優秀賞 山口 宣信・小寺 夏美 組 〈北海道〉 [初段の部] 谷口 桃子・堀江 亮介 組 〈広 島〉 優秀賞 古賀 重治・大塚 睦男 組 〈福 岡〉

回数	期日・場所	第 一 位
第35回	平成20年10月19日(日) 巣鴨学園ギムナシオン (東京都)	[七段の部] 河崎 清二・白石 武志 組 〈愛 媛〉 [六段の部] 久田 孝博・平原 喜孝 組 〈神奈川〉 [五段の部] 住吉美代子・宗像 純子 組 〈北海道〉 [四段の部] 増淵 徳造・関 展秀 組 〈茨 城〉 [三段の部] 上村 崇幸・原田 大 組 〈奈 良〉 優秀賞 藤田潤三郎・藤田ほずみ 組 〈大 阪〉 [二段の部] 浅井 康孝・柴田佳菜子 組 〈北海道〉 優秀賞 佐倉 康隆・谷口 裕基 組 〈広 島〉 [初段の部] 田村 浩志・三戸部良太 組 〈北海道〉 優秀賞 古賀 悠紀・佐古 勝久 組 〈兵 庫〉
第36回	平成21年10月18日(日) 横須賀アリーナ (神奈川県)	[七段の部] 河崎 清二・白石 武志 組 〈愛 媛〉 [六段の部] 工藤千代子・村田 幹子 組 〈山 形〉 [五段の部] 住吉美代子・宗像 純子 組 〈北海道〉 [四段の部] 増淵 徳造・関 展秀 組 〈茨 城〉 [三段の部] 横川 生敏・横川 賀代 組 〈高 知〉 優秀賞 佐倉 康隆・谷口 裕基 組 〈広 島〉 [二段の部] 小川内泰生・磯野美佐緒 組 〈福 岡〉 優秀賞 古賀 重治・宮原 芳樹 組 〈福 岡〉 [初段の部] 三戸部良太・猿川 剛史 組 〈北海道〉 優秀賞 高木 誠・細沼 哲也 組 〈北海道〉
第37回	平成22年10月17日(日) 東京武道館 (東京都)	[七段の部] 小林 光雄・安田 嘉一 組 〈神奈川〉 [六段の部] 岩本 光弘・久田 孝博 組 〈神奈川〉 [五段の部] 沼田 範之・古野 耕一 組 〈北海道〉 [四段の部] 高嶋 由紀・橋口 弘美 組 〈福 岡〉 [三段の部] 老松 克博・老松美由紀 組 〈大 阪〉 優秀賞 小川内泰生・磯野美佐緒 組 〈福 岡〉 [二段の部] 白神 義弘・宮田 遼平 組 〈大 阪〉 優秀賞 田村 浩志・猿川 剛史 組 〈北海道〉 [初段の部] 高井 宏行・秦 葉奈子 組 〈北海道〉 優秀賞 尾原 竜生・廣畑 翔太 組 〈広 島〉
第38回	平成23年10月16日(日) 舞洲アリーナ (大阪府)	[七段の部] 平原 喜孝・時任 晴美 組 〈神奈川〉 [六段の部] 橋本 幸士・松坂 徳昌 組 〈福 岡〉 [五段の部] 村上 宜央・狐塚 理沙 組 〈宮 城〉 [四段の部] 落合 毅・高鷲 強 組 〈東 京〉 [三段の部] 老松 克博・老松美由紀 組 〈大 阪〉 優秀賞 小川内泰生・磯野美佐緒 組 〈福 岡〉 [二段の部] 高木 誠・細沼 哲也 組 〈北海道〉 優秀賞 三戸部良太・高井 宏行 組 〈北海道〉 [初段の部] 矢崎 貴紀・田中 健太 組 〈東 京〉 優秀賞 田村 知之・田村 尚之 組 〈和歌山〉

回数	期日・場所	第 一 位
第39回	平成24年10月14日(日) 広島県立総合体育館 (広島県)	[七段の部] 村上 直隆・村上 和繁 組 〈宮 城〉 [六段の部] 古野 耕一・足立 隆宏 組 〈北海道〉 [五段の部] 菊永 隆博・上出 都 組 〈北海道〉 [四段の部] 伊藤 稔・浅井 康孝 組 〈北海道〉 [三段の部] 佐々木浩史・神鷹 良 組 〈宮 城〉 優秀賞 鈴森 友真・今仲 春菜 組 〈兵 庫〉 [二段の部] 秦 葉奈子・高井 宏行 組 〈北海道〉 優秀賞 高木 誠・細沼 哲也 組 〈北海道〉 [初段の部] 高橋 駿介・秋山 公良 組 〈東 京〉 優秀賞 佐々木 通・濱田 靖隆 組 〈奈 良〉
第40回	平成25年10月6日(日) 北海道立総合センター (北海道)	[七段の部] 工藤千代子・村田 幹子 組 〈山 形〉 [六段の部] 古野 耕一・足立 隆宏 組 〈北海道〉 [五段の部] 村上 宜央・狐塚 理沙 組 〈宮 城〉 [四段の部] 荒木 正亨・磯野美佐緒 組 〈福 岡〉 [三段の部] 鈴森 友真・今仲 春菜 組 〈兵 庫〉 優秀賞 高木 誠・細沼 哲也 組 〈北海道〉 [二段の部] 石井 利明・山本 直人 組 〈北海道〉 優秀賞 高木万里子・名野 まい 組 〈北海道〉 [初段の部] 中津留匠平・入沼 高史 組 〈兵 庫〉 優秀賞 佐々木壮太・本間 正彦 組 〈北海道〉
第41回	平成26年10月5日(日) 巣鴨学園ギムナシオン (東京都)	[七段の部] 工藤千代子・村田 幹子 組 〈山 形〉 [六段の部] 佐野 弘和・石田ゆき子 組 〈神奈川〉 [五段の部] 村上 宜央・狐塚 理沙 組 〈宮 城〉 [四段の部] 佐々木浩史・神鷹 良 組 〈宮 城〉 [三段の部] 森島 康次・久田 真介 組 〈神奈川〉 優秀賞 高井 宏行・三戸部良太 組 〈北海道〉 [二段の部] 河原 実保・森崎 遼 組 〈広 島〉 優秀賞 高木万里子・名野 まい 組 〈北海道〉 [初段の部] 安陪龍太郎・矢野 梓葉 組 〈東 京〉 優秀賞 柿本由貴美・高倉 千聖 組 〈福 岡〉
第42回	平成27年10月11日(日) 神戸市立中央体育館 (兵庫県)	[七段の部] 宮脇 誠吾・小林 利吉 組 〈広 島〉 [六段の部] 古野 耕一・菊永 隆博 組 〈北海道〉 [五段の部] 上出 都・野澤 草太 組 〈北海道〉 [四段の部] ルーシーアーリー・清水裕子 組 〈神奈川〉 [三段の部] 森島 康文・矢崎 貴紀 組 〈神奈川〉 優秀賞 土屋 智和・佐々木 隆 組 〈神奈川〉 [二段の部] 入村 高史・中津留匠平 組 〈兵 庫〉 優秀賞 逆井 拓海・三歩 拓 組 〈東 京〉 [初段の部] 見留 勝義・堀 義典 組 〈神奈川〉 優秀賞 中村 元哉・廣瀬 時 組 〈兵 庫〉

回数	期日・場所	第 一 位
第43回	平成28年10月16日(日) 岡山県体育館 (岡山県)	[七段の部] 矢ヶ部龍一郎・鬼木 正道 組 〈福 岡〉 [六段の部] 青木はるみ・高間真智子 組 〈神奈川〉 [五段の部] 野澤 草太・伊藤 稔 組 〈北海道〉 [四段の部] 高井 宏行・三戸部良太 組 〈北海道〉 [三段の部] 廣岡 猛男・廣岡 琴子 組 〈神奈川〉 優秀賞 土屋 智和・佐々木 隆 組 〈神奈川〉 [二段の部] 藤本 健一・稲吉 伸幸 組 〈福 岡〉 優秀賞 安部 祐樹・安部 保美 組 〈宮 城〉 [初段の部] 高島 三景・小山 苑佳 組 〈兵 庫〉 優秀賞 下村美那子・木部 彩乃 組 〈北海道〉
第44回	平成29年10月8日(日) 東京武道館 (東京都)	[七段の部] 小林 利吉・高橋 伸 組 〈広 島〉 [六段の部] 佐野 弘和・石田ゆき子 組 〈神奈川〉 [五段の部] 野澤 草太・伊藤 稔 組 〈北海道〉 [四段の部] 浅井 康孝・細沼 哲也 組 〈北海道〉 [三段の部] 高木万里子・山本 直人 組 〈北海道〉 優秀賞 下田 正信・櫻井 千恵 組 〈東 京〉 [二段の部] 澤 博史・尾崎 凌介 組 〈広 島〉 優秀賞 中村 元哉・廣瀬 時 組 〈兵 庫〉 [初段の部] 小西 莉愛・村中 志優 組 〈北海道〉 優秀賞 久末 佳・阿部 将大 組 〈北海道〉
第45回	平成30年10月14日(日) 久留米総合 スポーツセンター (福岡県)	[七段の部] 高橋 伸・宮脇 誠吾 組 〈広 島〉 [六段の部] 村上 宜央・狐塚 理沙 組 〈宮 城〉 [五段の部] 森野 寛・西原 正人 組 〈愛 媛〉 [四段の部] 細沼 哲也・高木 誠 組 〈北海道〉 [三段の部] 古野 聖児・山本 直人 組 〈北海道〉 優秀賞 安藤 光佑・中村 元哉 組 〈兵 庫〉 [二段の部] 下村美那子・阿部 翔大 組 〈北海道〉 優秀賞 青木 多聞・古谷 耀 組 〈東 京〉 [初段の部] 村中 志優・竹内 奈帆 組 〈北海道〉 優秀賞 青山 玲乃・勝亦 恵未 組 〈北海道〉
第46回	令和元年10月13日(日) 横須賀アリーナ (神奈川県)	台風19号の為開催中止
第47回	令和2年10月11日(日) 埼玉県立武道館 (埼玉県)	新型コロナウイルス感染症拡大の為中止

回数	期日・場所	第 一 位
第 48 回	令和 3 年 10 月 7 日(日) 中村スポーツセンター (愛知県)	〔七段の部〕 古野 耕一・足立 隆宏 組〈北海道〉 〔六段の部〕 伊藤 稔・井上 廣巳 組〈北海道〉 〔五段の部〕 森島 康文・矢崎 貴紀 組〈神奈川〉 〔四段の部〕 長谷川澄子・磯部友紀恵 組〈神奈川〉 〔三段の部〕 石川 祐貴・石川 幸範 組〈神奈川〉 優秀賞 福田 百花・山田みなみ 組〈神奈川〉 〔二段の部〕 松田 武尊・谷口 剛 組〈兵庫〉 優秀賞 前田 達矢・鍋田 共志 組〈東京〉 〔初段の部〕 安藤 昂佳・平野 恭平 組〈兵庫〉 優秀賞 国保 怜・平賀 友大 組〈愛知〉
第 49 回	令和 4 年 10 月 16 日(日) 静岡県武道館 (静岡県)	〔七段の部〕 宮脇 誠吾・矢鋪 祐司 組〈広島〉 〔六段の部〕 老松美由紀・渡邊ロマン 組〈大阪〉 〔五段の部〕 森島 康文・矢崎 貴紀 組〈神奈川〉 〔四段の部〕 本間 正彦・下村美那子 組〈北海道〉 〔三段の部〕 竹内 奈帆・小西 莉愛 組〈北海道〉 優秀賞 新島 邦行・臼田麻由美 組〈静岡〉 〔二段の部〕 高橋あゆみ・佐川ともえ 組〈北海道〉 優秀賞 樋口由香里・前田 敏行 組〈北海道〉 〔初段の部〕 サラニーマン・藤井 義隆 組〈広島〉 優秀賞 佐藤 元康・後藤麻裕子 組〈東京〉
第 50 回	令和 5 年 10 月 15 日(日) 横浜武道館 (神奈川県)	〔七段の部〕 古野 耕一・足立 隆宏 組〈北海道〉 〔六段の部〕 野澤 草太・伊藤 稔 組〈北海道〉 〔五段の部〕 細沼 哲也・高木 誠 組〈北海道〉 〔四段の部〕 長谷川澄子・磯部友紀恵 組〈神奈川〉 〔三段の部〕 谷口 剛・大原 進吾 組〈兵庫〉 優秀賞 福田 百花・石田 俊樹 組〈神奈川〉 〔二段の部〕 塩野 淳也・山本 昌史 組〈神奈川〉 優秀賞 サラニーマン・藤井 芳隆 組〈広島〉 〔初段の部〕 近藤 卓・松尾 孝彦 組〈東京〉 優秀賞 藤原 裕也・新谷 陽介 組〈兵庫〉
第 51 回	令和 6 年 10 月 13 日(日) 京都市武道センター (京都府)	〔七段の部〕 組〈 〉 〔六段の部〕 組〈 〉 〔五段の部〕 組〈 〉 〔四段の部〕 組〈 〉 〔三段の部〕 組〈 〉 優秀賞 組〈 〉 〔二段の部〕 組〈 〉 優秀賞 組〈 〉 〔初段の部〕 組〈 〉 優秀賞 組〈 〉

# 全日本剣道連盟ならびに地方代表団体一覧

(会長名・事務局所在地・電話番号・FAX番号)

令和6年8月21日現在

全日本剣道連盟	北の丸事務所	102-0091	東京都千代田区北の丸公園 2-3 日本武道館内	TEL03(3211)5804	FAX(3211)5807
会長 網代忠宏	九段事務所	102-0074	東京都千代田区九段南 2-3-14 靖国九段南ビル 2階	TEL03(3234)6271	FAX(3234)6007

地方代表団体	会長	〒	事務局所在地	電話	F A X
(一財)北海道剣道連盟	武田 牧 雄	062-0905	札幌市豊平区豊平 5 条 11-1-1 北海道立総合体育センター内	011(820)1662・1663	(820)1662・1663
青森県	三上 順 一	038-0059	青森市大字油川字中道 19-6	017(787)2485	(787)2485
秋田県	小松 誠	011-0945	秋田市土崎港西 5-11-10	018(838)1783	(845)3255
山形県	安部 美知雄	990-0025	山形市あこや町 3-1-28	023(625)4825	(625)4826
岩手県	小笠原 宏志	020-0133	盛岡市青山 4-13-30 (公財) 岩手県体育協会会館 内	019(645)2220	(645)2220
(一財)宮城県	井上 雅 勝	982-0845	仙台市太白区門前町 2-1	022(746)8461	(746)8462
福島県	長谷川 弘一	960-0102	福島市鎌田字町 23 サラダハウス A101 号	024(597)8218	(597)8218
(一財)茨城県	水田 重 則	310-0903	水戸市堀町 1161-13	029(251)8811	(255)6228
栃木県	白石 正 範	320-0066	宇都宮市駒生 1-1-6 栃木県教育会館 2階	028(624)4567	(627)4001
群馬県	小林 一 隆	371-0047	前橋市関根町 3-27-12	027(235)0870	(235)0870
(公財)埼玉県	栗原 憲 一	330-0074	さいたま市浦和区北浦和 5-6-5 浦和合同庁舎 4階	048(834)8869	(834)8879
(一財)東京都	千葉 胤 道	105-0004	港区新橋 4-24-2	03(5405)2166	(5405)3680
(一財)千葉県	忍 足 功	263-0024	千葉県稲毛区穴川 2-3-20	043(285)4331	(285)4333
神奈川県	幸野 實	221-0835	横浜市神奈川区鶴屋町 2-17-1 相鉄・岩崎学園ビル 307号	045(321)6175	(321)6176
山梨県	山本 洋 一	409-3804	中央市井之口 150-2	055(278)6162	(278)6163
(一財)新潟県	荻 莊 誠	950-0982	新潟市中央区堀之内南 3-1-21 北陽ビル 2階	025(384)4784	(384)4794
(一財)石川県	南 信 廣	920-0811	金沢市小坂町西 57-3 KS ハイッ 205 号	076(253)0310	(253)0341
(一財)富山県	大門 進	939-8076	富山市太郎丸 2 - 7 7 伊勢税理士事務所内	076(492)4040	(423)6087
(一財)福井県	片山 外 一	910-0015	福井市二の宮 2-24-18 サンライズ二の宮 1-B	0776(28)6616	(28)6616
(一財)長野県	二木 むつみ	380-0844	長野市諏訪町 503	026(237)8939	(235)8266
(一社)静岡県	二橋 高 弘	420-0822	静岡市葵区宮前町 355	054(263)5428	(263)8367
(一財)愛知県	大 嶽 將 文	453-0035	名古屋市中区区十王町 11-22	052(481)0093	(481)0095
岐阜県	堤 俊 彦	500-8384	岐阜市藪田南 1-11-12 岐阜県水産会館 611	058(274)1521	(274)8949
三重県	中 森 博 文	514-0007	津市大谷町 152 大谷ハイム 1-202 号	059(226)5975	(229)7407
(一財)滋賀県	中野 正 堂	524-0022	守山市守山 4-7-20 辻田ビル 2階	077(514)3165	(514)3178
(一財)京都府	伊吹 文 明	606-8392	京都市左京区聖護院山王町 19	075(761)8288	(761)8287
(公社)大阪府	長 榮 周 作	530-0044	大阪市北区東天満 2-8-1 若杉センタービル別館 502 号	06(6351)3345	(6351)3346
(一財)奈良県	吉田 克 法	630-8115	奈良市大宮町 5-3-14 不動ビル 505 号	0742(32)5008	(32)5011
和歌山県	世 耕 弘 成	640-8329	和歌山市田中町 5-4-2	073(432)7760	(432)7759
(公財)兵庫県	神谷 明 文	657-0838	神戸市灘区王子町 1-2-8 虹ヶ池ハイッ 201 号	078(861)5145	(802)5240
(一財)岡山県	藤田 長 久	700-0826	岡山市北区磨屋町 1-1	086(235)3255	(235)3245
(一財)広島県	田中 秀 和	730-0014	広島市中区上鞆町 1-5	082(962)3076	(962)3087
(一財)山口県	中西 章	753-0083	山口市後河原 237-1 警察体育館別館内	083(932)5072	(932)5073
(一財)鳥取県	岸 田 芋	680-0036	鳥取市川端 3-216 瀧本ビル 3階	0857(29)2668	(29)2668
島根県	高木 弘 伸	690-0883	島根県松江市北田町 47-1 鬼村純方	0852(27)6222	0852(27)6222
香川県	三原 悦 男	760-0033	高松市丸の内 4-6 アラキビル 2階南	087(880)4463	(880)4467
(一社)愛媛県	俊野 徹 人	790-0952	松山市朝生田町 5-3-28 福泉ビル 205 号	089(941)9394	(941)3013
高知県	渡 邊 三 則	781-5102	高知市大津甲 2009-34	090-1009-6857	
徳島県	藤川 和 秋	770-0861	徳島市住吉 3-9-6 栗本マンション 106 号	088(652)2337	(652)2360
(公社)福岡県	青柳 俊 彦	810-0052	福岡市中央区大濠 1-1-1 福岡武道館内	092(712)1890	(712)1891
(一社)佐賀県	川上 春 生	849-0923	佐賀市日の出 2-1-11 佐賀県スポーツ会館	0952(33)7184	(20)9888
(一財)長崎県	灰谷 達 明	850-0036	長崎市五島町 5-34 トーカンマンション 1-E	095(826)5220	(826)5220
(一財)大分県	三浦 悟	870-0820	大分市西大道 1-1-76 第 2 ハルキコーポ 101 号	097(547)9980	(547)9981
(一財)熊本県	尾方 正 照	862-0950	熊本市中央区水前寺 5-23-2 熊本武道館内	096(381)8998	(381)8998
宮崎県	橋口 光 博	880-2102	宮崎市大字有田 371-4	0985(62)3890	(62)3893
鹿児島県	野村 良 三	890-0062	鹿児島市与次郎 1-4-20 県立武道館内	099(255)8778	(255)8778
(一財)沖縄県	親川 光 俊	900-0026	那覇市奥武山町 51-2 沖縄県体協スポーツ会館 501 号	098(859)0410	(996)4616

## 全剣連発行の頒布物一覧

頒布物名	価格	重量(g)	厚さ(mm)	頒布物名	価格	重量(g)	厚さ(mm)
剣道試合・審判規則	¥400	66	3	剣道用具の保守・管理（英語版）	¥400	69	3
剣道試合・審判・運営要領の手引き	¥200	43	2	剣道授業の展開（DVD付き）	¥1,000	346	7
FIK 剣道試合・審判規則（和英版）	¥1,000	140	5	絵図と写真に見る剣道文化史	¥2,500	627	11
居合道試合・審判規則	¥500	55	3	木刀による剣道基本技稽古法 DVD	¥3,600	92	15
杖道試合・審判規則	¥500	58	3	居合 DVD（英語版）	¥3,100	93	15
称号・段級位審査規則	¥400	81	3	剣道人バッジ（ネジ・タック）	各 ¥1,800	13	16
日本剣道形解説書	¥200	93	2	カフス・タイピン（真鍮バー）	¥6,100	66	30
日本剣道形解説書（英語版）	¥900	240	5	FIK バッジ（ネジ）	¥1,100	19	18
居合解説	¥250	74	3	男子審判用ネクタイ	¥2,500	58	16
居合解説（英語版）	¥500	79	3	女子審判用ネクタイ	¥2,000	52	9
杖道解説	¥500	186	7	竹刀検査用基準器 ゲージ1（先革先端部最小直径計測用）	¥4,600	55	3
杖道解説（英語版）	¥900	183	7	竹刀検査用基準器 ゲージ2（ちくとう対角計測用）	¥4,600	55	3
剣道指導要領	¥2,900	554	7	竹刀検査用基準器 検査台（ちくとう対角計測用）	¥9,800	510	25
剣道指導要領（英語版）	¥3,400	858	11	竹刀検査用基準器セット	¥18,000	620	28
剣道指導の手引き【二刀編】	¥1,000	144	2	ぶしし手ぬぐい（白・紺・黄）	各 ¥600	38	4
剣道和英辞典（第3版）	¥2,100	283	14	ぶししクリアファイル（5枚セット）	¥500	127	2
剣道社会体育教本（改訂版）	¥2,100	664	13	ぶししステッカーシート	¥200	8	1
剣道医学Q & A（第3版）	¥2,100	785	15	ぶししラバーキーホルダー	¥800	19	5
剣道講習会資料	¥500	310	8	ぶししポロシャツ ネイビー（S・M・L・XL）	各 ¥2,500	226	20
木刀による剣道基本技稽古法	¥500	175	2	ぶししぬいぐるみ	¥4,000	256	210
木刀による剣道基本技稽古法（英語版）	¥700	173	2	設立七十周年記念出版「全剣連と剣道界 この十年の歩み」	¥2,500	980	28

\* 品物はすべて消費税込みとなります。

\* 全日本剣道連盟の頒布物販売は、心力舎企画（株）に委託しております。

### 『購入申し込み方法』

(1) インターネットからのお申し込み・・・<https://zenkenren-shop.com>

(2) FAXでのお申し込み・・・心力舎企画株式会社 03-3451-6905 へFAXして下さい。

①品物名、②数量、③支払い方法、④発送方法、⑤氏名、⑥住所、⑦電話番号、⑧FAX番号をご記入下さい。

お支払い金額（品物代金+送料）を記入したご注文確認のFAXを返信いたしますので、お支払い手続きをお願いいたします。

◎お支払い方法 （②以外の手数料はお客様ご負担でお願いいたします。）

①代金引換、②クレジットカード決済、③銀行振込、④郵便振替

◎発送方法・送料 （送料は、ご注文の際にお知らせいたします。）

①宅配便……送料はお申し込み品物の重量・お届け地域によって異なります。また、離島・一部地域は、別途中継手数料が発生します。

②メール便……（この場合、代金引換はご利用いただけません。）

全国一律、500円で、A4サイズ（厚さ20mmまで）の品物の配送に利用いただけます。

\* オンラインショップのホームページをご利用いただくと品物の合計代金と送料が自動計算されます。

# 月刊 剣窓

## —— 剣道人 必読の書 ——

月刊『剣窓』は、剣道人および剣道に関心をお持ちの方々に、剣道に関する情報を提供するものです。

日頃の稽古や講習など、さまざまな活動の場において、互いに情報を共有していれば指導しやすく、また学びやすい——切磋琢磨する剣士の実用書として是非ご活用ください。

### 主な内容

各界人による巻頭コラム「剣筆」／全剣連の動き、各専門委員会の活動報告／全剣連が関与する各大会の記録、観戦記・総評／大会・審査会・講習会などの行事予告、要項／称号・段位（六段以上）審査合格者、審査員寸評／五段審査合格者／国際剣道に関する情報、海外派遣報告／講習会などの講話および指導内容の要旨／随筆、寄稿、歴史読物など

〈年間購読料(12回分) 税・送料込 3,300円〉

### お申し込み

お申し込みは、随時受け付けております。所定の郵便払込取扱票にて、お振り込みください。お手元に所定の郵便払込取扱票が無い場合は、最寄りの郵便局備え付けの郵便払込取扱票に、次の口座番号「00100-9-116250」ならびに加入者名「全日本剣道連盟」をご記入の上、お手続きください。

また、オンラインショップでもお求めいただけます。

<https://zenkenren-shop.com/kenso/>

### お問い合わせ

## 全日本剣道連盟九段事務所

〒102-0074 東京都千代田区九段南 2-3-14 靖国九段南ビル 2階

電話 03(3234)6271 FAX 03(3234)6007

全剣連ホームページ・アドレス

<https://www.kendo.or.jp/>

私たちは《剣道》を応援しています

